

The background of the slide is decorated with various sized circles in blue, red, black, and grey, scattered across the page.

投資家様向け会社説明資料

2025年5月13日現在

証券コード：4202

イントロダクション

事業ポートフォリオに沿ったメリハリをつけた経営により
収益向上を目指します。

代表取締役社長

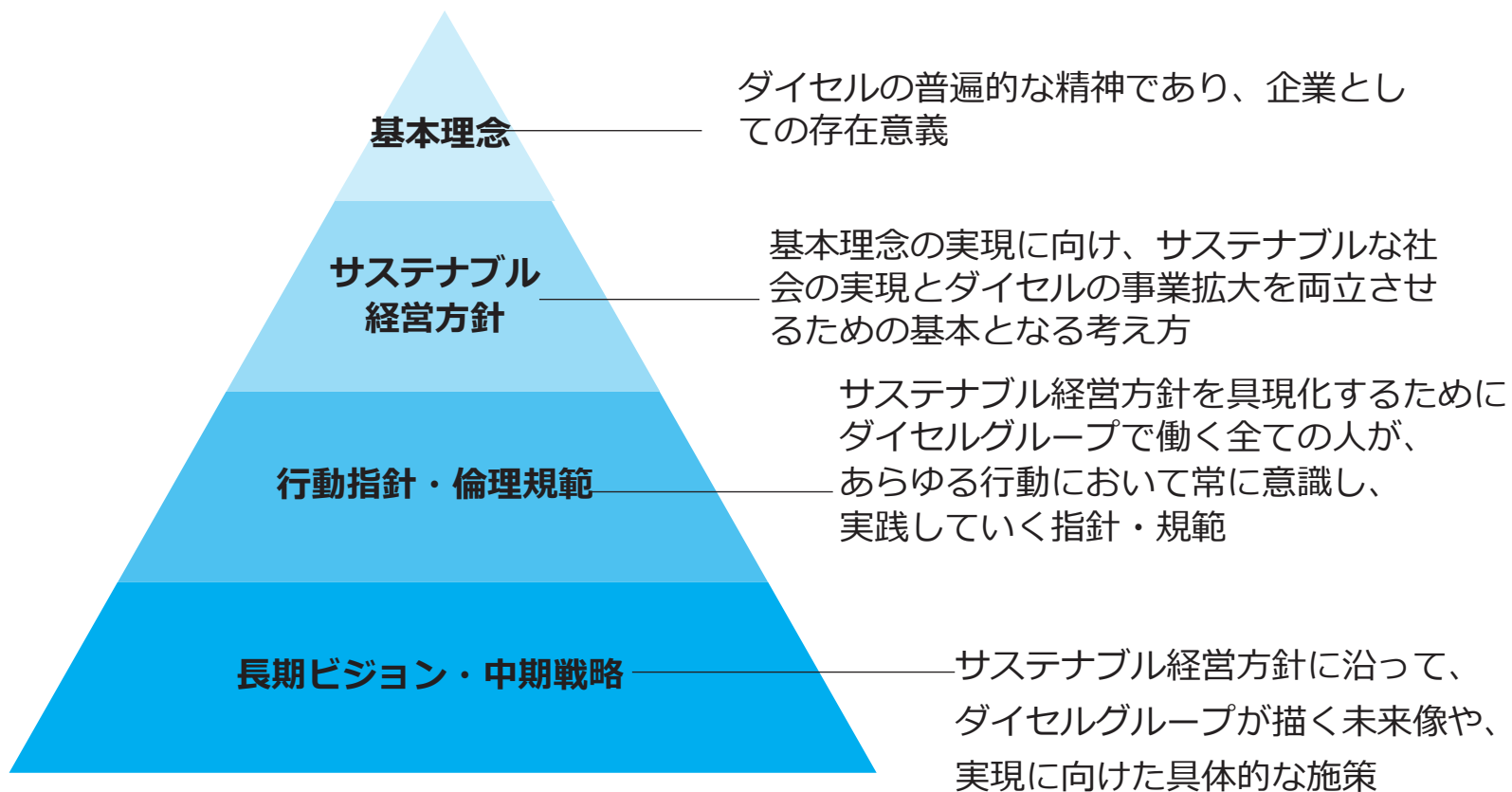
柳 康裕



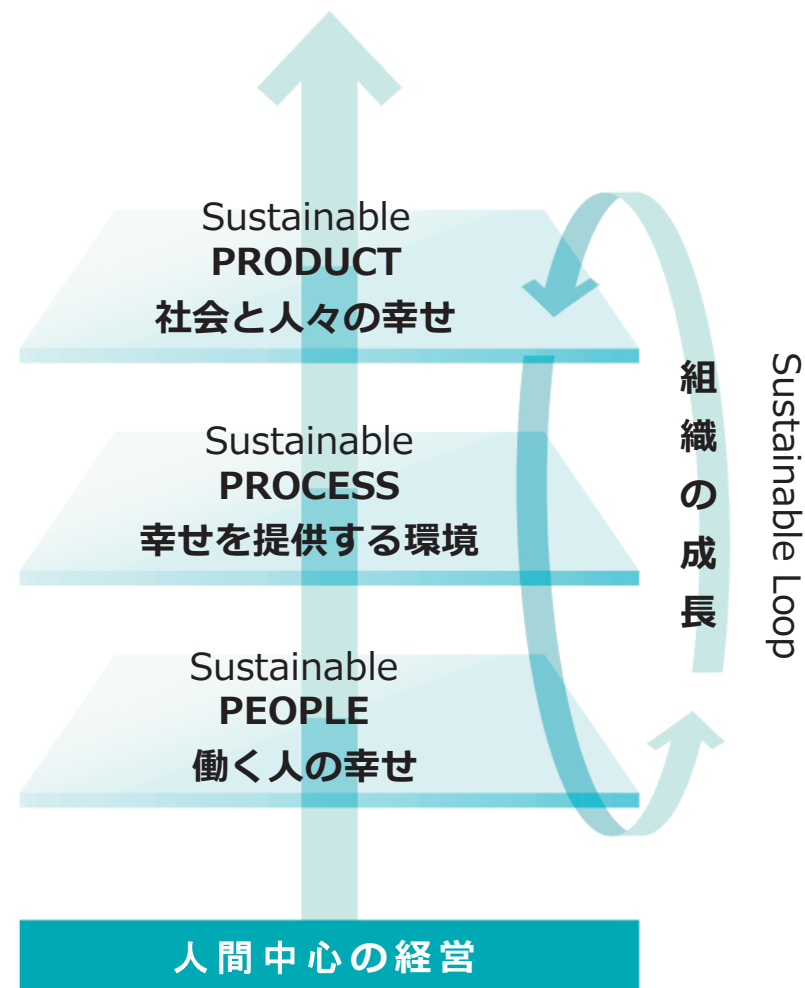
目 次

イントロダクション	2
基本理念	3
ダイセルとは	4
製品・技術系譜から見たダイセルグループ	5
ダイセルグループの強み	6
ダイセルグループの事業	7
中期戦略/ポートフォリオマネジメント	13
業績推移	14
株主還元	15
会社概要	16
Appendix	17

ダイセルグループの理念体系



サステナブル経営方針



ダイセルとは



1919年、日本のセルロイド会社8社の合併によって大日本セルロイド株式会社（今日の株式会社 ダイセル）は誕生しました。現在は、世界15の国・地域に73社、連結従業員数は1万人規模で、5つのセグメントで事業を展開し、基盤事業における収益力向上と成長分野の拡販に取り組んでいます。事業ポートフォリオを意識したメリハリのある経営を実践し、ROICやEBITDA等の各経営指標の改善に取り組んでいます。また、株主還元についても、DOE4%以上かつ総還元性向40%以上をベースに、さらなる向上を図っていきます。

2025年3月期

連結売上高 **5,865** 億円

連結営業利益 **610** 億円

EBITDA **1,024** 億円

EPS **181.44** 円

ROIC **6.1** %

ROE **13.8** %

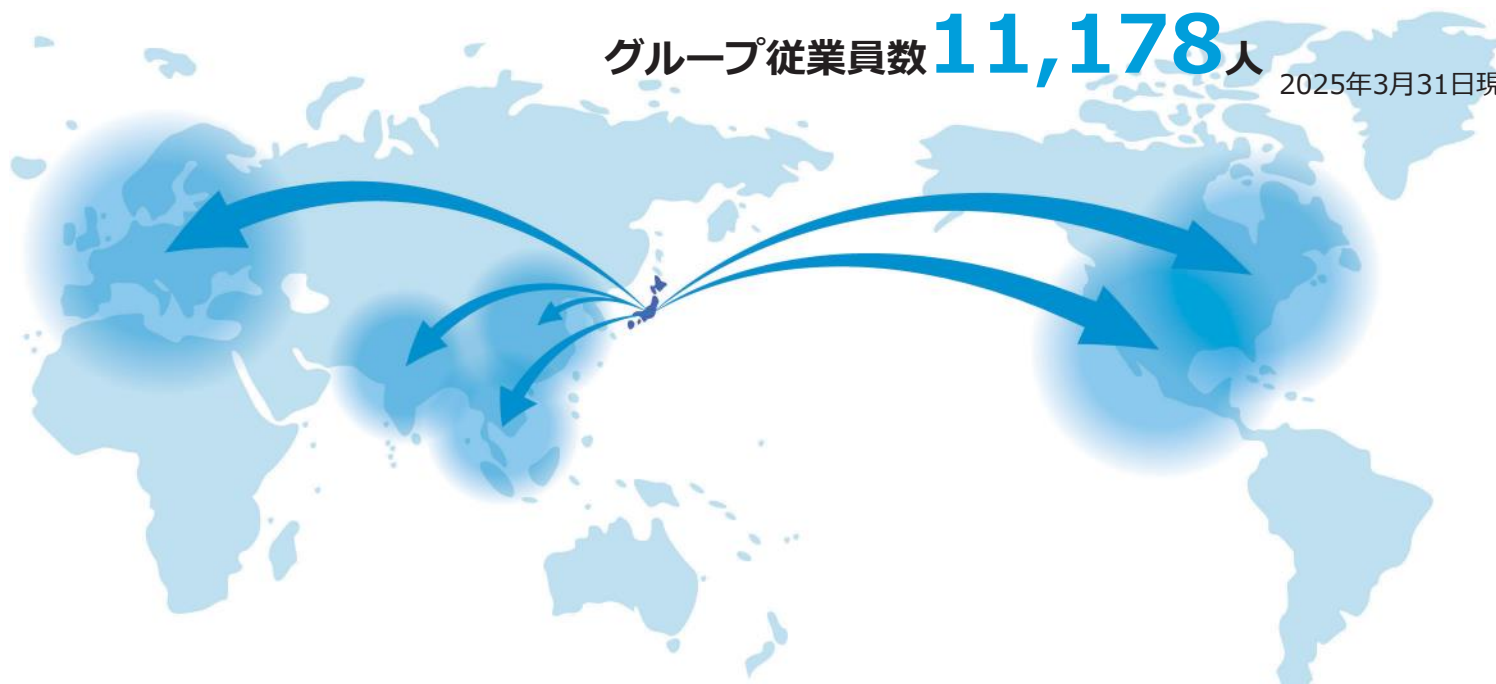
ROA **6.0** %

ダイセルグループ 連結海外売上高 **67.3** %

グループ企業数 **15** の国と地域に **73** 社

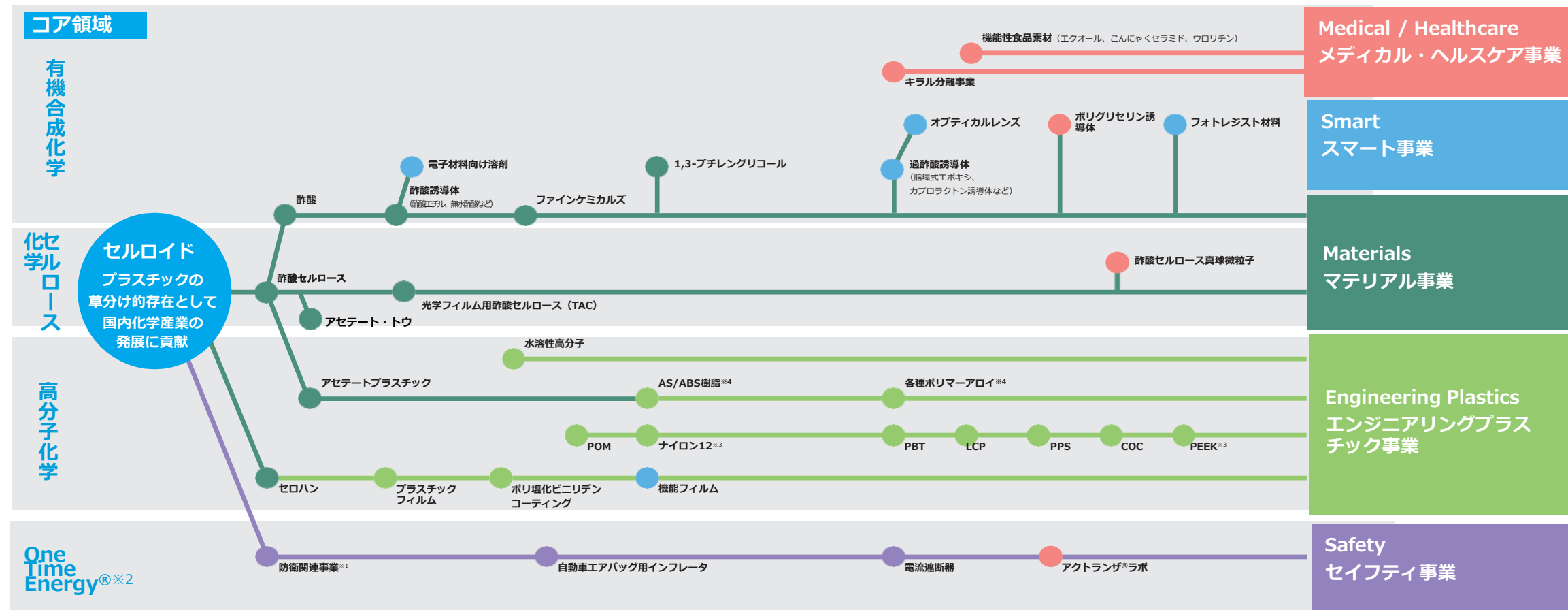
グループ従業員数 **11,178** 人

2025年3月31日現在



製品・技術系譜から見たダイセルグループ

セルロイド事業を起点とするダイセルは、その蓄積した技術をベースに、4つの新たな技術領域を展開してきました。天然素材を原料とする「セルロース化学」を始めとし、強固なアセチルチェーンを確立した「有機合成化学」、多様な樹脂の研究により培った「高分子化学」、火工品技術から進化した「One Time Energy®」は、ダイセルグループの事業領域を支えるコア技術として、現代の多様化する社会ニーズに貢献し続けています。



※1 2023年3月期 事業撤退 ※2 インフレーター製造で培った「安全、確実、瞬時に、一度だけ最適なエネルギーを生み出す技術、One Time Energy®」と定義し、自動車用途以外にも用途開拓しています。
 ※3 ポリプラ・エボニック株式会社の製品 ※4 ABS樹脂および各種ポリマーアロイは、2024年設立のノバセル株式会社へ譲渡しました。

ダイセルグループの強み



セルロイドは世界で初めて工業化されたプラスチックで、日本では1900年代から原料の国産化が始まりました。その後、国内セルロイドメーカー8社の合併により、1919年に誕生したのが、大日本セルロイド株式会社（今日のダイセル）です。ダイセルは、時代のニーズに合わせた製品開発を続け、人々の暮らしに役立つ様々な素材を提供しています。また、化学プラントの画期的な生産革新手法や省エネ・省資源につながる生産技術の開発にも取り組んでいます。私たちダイセルは、世界各地に広がるグループ企業各社とともに、化学産業におけるエコノミーとエコロジーの調和を図りながら、これからも人々に幸福をもたらす企業であり続けたいと考えています。

ダイセルの3つの強み

1 バイオマス化学の パイオニア

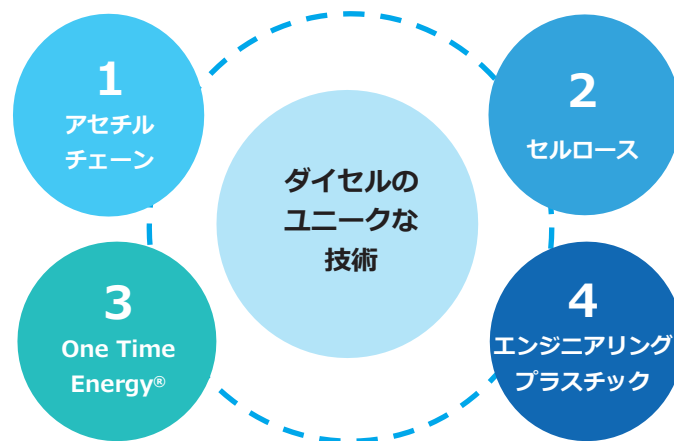
1919年の設立以来、ダイセルは植物由来の原料から化学品を作るバイオマス化学に取り組んできました。綿花やクスノキの一部を原料としたセルロイド事業から出発し、その易燃性を克服した酢酸セルロースの製品化を経て、現在は様々な市場分野にバイオマス製品を供給し続けています。



酢酸セルロース

2 創業以来培った ユニークな技術

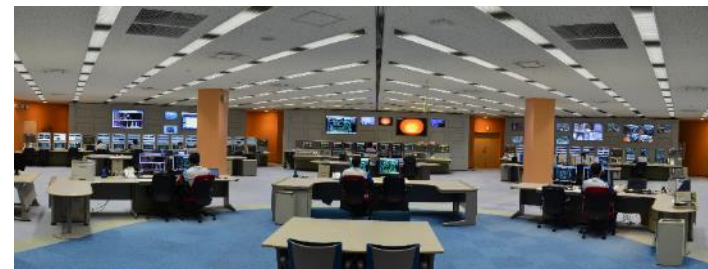
酢酸誘導体を製造するアセチルチェーンの構築から、世界的シェアを持つ高機能エンジニアリングプラスチックの製造まで、革新的な技術でプロダクトを世に送り出しています。



3 ダイセル式生産革新に よる生産効率の追求

当社の化学メーカーとしてのモノづくりの基盤を支えるのが、ダイセル式生産革新です。熟練オペレータが持つ約840万の工場運転に関するノウハウを可視化し、運転支援システムに組み込むことで、生産効率を約3倍※に向上させました。2020年には、さらにAIを用いて進化させた「自律型生産システム」の開発に成功。安全・品質はもちろん、エネルギー使用の最適化でCO₂排出量の削減にも寄与するなど、究極の生産効率を追求しています。

※ダイセル網干工場での実績



統合生産センター

[ダイセル式生産革新TOP | 株式会社ダイセル \(daicel.com\)](https://daicel.com)

ダイセルグループの事業



2025年3月期連結売上高
5,865億円

マテリアル事業を基盤に、成長事業であるエンジニアリングプラスチックとセイフティのEBITDAを拡大し、次世代育成であるメディカル・ヘルスケアとスマートの早期収益化へ。

Medical / Healthcare メディカル・ヘルスケア事業

売上高
144億円
構成比率
2.5%

QOLが重視される社会に、安全で高品質なヘルスケア
素材や医薬品開発に関わるソリューションを提供



キラルカラム

光学異性体を分離するクロマトグラフィー用カラム。薬として有効な成分を分離し、安全な医薬品の提供に貢献。



BELLOCEA® (化粧品用の真球状酢酸セルロース)

海洋生分解性を持ち、化粧品業界の海洋プラスチックごみ問題解決への貢献に期待。

Smart スマート事業

売上高
373億円
構成比率
6.4%

人々の暮らしの快適さや技術革新を支える
電子材料市場に新たなソリューションを提供



脂環式エポキシ

世界唯一の製法で不純物が少なく、塩素を含まないため、品質への信頼性や耐久性が求められる電材用途で多く採用され、EV向けでも注目度大。



電子材料向け溶剤

高純度、低メタル溶剤の生産・品質管理体制を有し、半導体プロセス用途で高い実績。

Safety セイフティ事業

売上高
976億円
構成比率
16.6%

高いグローバルシェアを誇るエアバッグ用
インフレーター事業で培ったOne Time Energy®の技術で
幅広い産業に安全・安心を提供



自動車エアバッグ用 インフレーター

自動車エアバッグシステムのキーパーツを供給し、衝突事故時の乗員の安全確保に貢献。



電流遮断器

インフレーター製造で培ったOne Time Energy®技術を自動車以外の産業用途に展開し、暮らしの安全を支える。

Materials マテリアル事業

売上高
1,834億円
構成比率
31.3%

アセチルチェーンを主軸とした多彩な製品群、
ユニークな製法を強みに幅広い産業に価値を提供



酢酸

国内唯一の酢酸メーカー。酢酸は環境にやさしいプラスチック製品の原料でもあり、環境対応型素材として、ソリューションを提供。



アセテート・トウ

酢酸セルロースから作られるアセテート・トウは、酢酸からの一貫生産という強みに加え、ダイセルの高い技術による高品質と安定供給、そして高い信頼性を誇る。

Engineering Plastics エンジニアリングプラスチック事業

売上高
2,480億円
構成比率
42.3%

エンジニアリングプラスチックのパイオニアとして
培った技術力で、幅広い産業に高機能で
付加価値の高いソリューションを提供



ポリアセタール (POM)

自動車、電子・電気、産業機器向けなどの幅広い用途に使用され、各時代の主要産業の発展に貢献。



液晶ポリマー (LCP)

タブレット端末やスマートフォンなど、小型化が進む最新IT機器の超小型精密コネクタに多く利用され、社会インフラを支える。

メディカル・ヘルスケア事業

主要な事業

→ ライフサイエンス、ヘルスケア

ライフサイエンス事業では、医療分野において光学異性体を分離精製するキラルカラムの製造販売や受託分離サービスが、世界トップシェアを占めています。また、近年ではバイオ分野への事業拡大にも積極的に取り組んでいます。ヘルスケア事業（コスメ・健康食品）では、人々のQOL※向上への貢献を目指し、高品質な化粧品原料、天然由来の健康食品素材などを開発・販売しています。

※QOL-Quality of Lifeの略で、物質的な豊かさだけでなく、精神面も含めた生活の質のこと

2025年3月期実績

売上高

営業利益

144億円 3億円

■ダイセルグループの強み

1 ライフサイエンス：キラル分離技術の先端企業

キラル（光学異性体）カラムの工業化に世界で初めて成功。分離技術をさらに発展させるとともに、関連する製薬会社や研究者とのグローバルに広がるネットワークを構築。

2 ライフサイエンス：特徴ある医療系材料事業

針のない新規投薬デバイスや医療用材料として使われる高機能プラスチック製品と、グループ内にある医療関連事業間の連携により事業シナジーを推進。

3 ヘルスケア：ユニークな製造技術

コスメにおいては、副生物が少なく水溶性が高い無色・透明なポリグリセリンを製造可能。健康食品においては、独自の発酵技術を活用し、体内で作りにくい腸内代謝物をバイオ技術を用いて製造。

■主要な製品

ライフサイエンス事業

クロマトグラフィー用カラム・充填剤（キラル・アキラル）、キラル試薬、受託分取・精製サービス、分析サービス、合成サービス、遺伝子解析研究試薬、新規投与デバイス



キラルカラム

ヘルスケア事業

- 化粧品原料
（ポリグリセリン誘導体、真球状酢酸セルロース「BELLOCEA®」など）
- 健康食品素材
（エクオール、こんにゃくセラミド、ウロリッチ®、ラクトビオン酸など）



化粧品原料：真球状酢酸セルロースBELLOCEA®

スマート事業

主要な事業 → ファンクショナルプロダクツ、アドバンステクノロジー

スマート事業は、主にエレクトロニクス市場に向けた素材・ソリューションを提供しています。ファンクショナルプロダクツ事業では、世界的にもユニークな製法を持つ脂環式エポキシや、カプロラクトン誘導体を扱っています。アドバンステクノロジー事業では、半導体製造工程で使用する高機能なフォトレジスト材料や電子材料向け溶剤、スマートフォン・タブレットから車載用途まで、各種ディスプレイに求められる防眩性や強度を持つ機能フィルムを製造しています。

2025年3月期実績

売上高 営業利益

373億円 △8億円

■ ダイセルグループの強み

1 市場ニーズに応えるマーケットイン型のソリューション

エレクトロニクス市場において、合成、配合、コーティングといった材料設計や生産技術により、素材からモジュールパーツまで顧客ニーズに応えるソリューションと価値を提供。

2 ユニークな製法による世界シェアNo.1の脂環式エポキシ

世界唯一の製法による高品質な脂環式エポキシを製造。金属を腐食させる塩素を含まない製法により、高品質・高性能で、電子・電気材料やEVなどのモビリティ材料にも対応。

3 安定供給と高度化への対応

半導体業界の高い品質要求レベルに対応できる技術力と安定した供給能力を保有。顧客と密着した製品開発を可能とし、高度化する新たな要求にも対応。

■ 主要な製品

ファンクショナルプロダクツ事業

脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体、
オプティカルレンズ



EVモーター向け
脂環式エポキシ（用途例）

アドバンステクノロジー事業

フォトレジスト材料、電子材料向け溶剤、
機能フィルム



電子材料向け溶剤
（半導体製造前工程イメージ図）

セーフティ事業

主要な事業 ➡ モビリティ、インダストリー

自動車の衝突を感知してから数ミリ秒でエアバッグを膨らませ、乗員や歩行者の命を守る自動車エアバッグ用インフレーター（ガス発生装置）が、セーフティ事業の主力製品です。このインフレーターで培った安全機構を、One Time Energy®と呼称し、エアバッグ以外の用途にも展開しています。緊急時に安全かつ瞬時に高電圧・大電流を遮断する電流遮断器もその一例で、EV化やAIの普及などにより自動化が進む様々な産業への展開が期待されています。

2025年3月期実績

売上高

営業利益

976億円 39億円

■ ダイセルグループの強み

1 長年蓄積したインフレーター技術

自動車エアバッグ用インフレーターを事業化した1988年より、ガス発生剤から一貫生産し、高い信頼性で人々の安全に貢献。

2 トヨタ生産方式×ダイセル式生産革新

ダイセル式生産革新の考え方をベースにトヨタ生産方式を応用し、高い品質と生産性を追求。

3 高度な統合管理（画像解析）システム

株式会社 日立製作所と共同開発した統合管理システムにより、シリアル単位の品質管理を実現。このシステムを標準装備としてグローバルに展開。高いレベルの品質管理をベースに、顧客との強固な信頼関係を構築。

■ 主要な製品

モビリティ事業

自動車エアバッグ用インフレーター



自動車エアバッグ用
インフレーター

インダストリー事業

電流遮断器、シートベルトプリテンショナー用ガス発生器(PGG)



電流遮断器

マテリアル事業

主要な事業 → アセチル、ケミカル

幅広い産業に様々な素材を提供しています。当社は、多様な用途を持つ酢酸の国内唯一のメーカーで、酢酸を中心に、酢酸を原料とする化学品、木材や綿花から採れるセルロースと無水酢酸を原料とした酢酸セルロース、これを紡糸したアセテート・トウから構成されるアセチルチェーンを構築しています。光学フィルムに使用されるTAC ※は世界トップシェアで、アセテート・トウも世界的に高いシェアを持っています。

2025年3月期実績

売上高 営業利益

1,834億円 296億円

■ダイセルグループの強み

1 ダイセル式生産革新による最適なプラント運転

ダイセル式生産革新を進化させた「自律型生産システム」を構築。最適なプラント運転により、製造プロセスでの安全・品質・安定供給・コスト競争力アップを実現。

2 強固なアセチルチェーンを構築

国内唯一の酢酸メーカーとして、酢酸や酢酸を原料とする誘導体の製造・販売。さらに、顧客や当社グループ工場で副生される酢酸を回収・精製・再利用する循環構造を確立するなど、強固なアセチルチェーンを構築。

3 技術力を駆使したテクニカルサポート

天然素材であるセルロースの物性コントロール・加工技術の蓄積を駆使し、顧客ニーズに応じた酢酸セルロースおよびアセテート・トウのテクニカルサポートをグローバルに展開

■主要な製品

アセチル事業

酢酸、無水酢酸、アセテート・トウ



アセテート・トウ

ケミカル事業

酢酸セルロース、1,3-ブチレングリコール（1,3-BG）、酢酸エチルなど有機溶剤、ケテン誘導体、エチルアミン



光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）

※ TAC : Triacetylcellulose

エンジニアリングプラスチック事業

主要なグループ企業

→ポリプラスチック、ダイセルミライズ

ポリプラスチック社は、機械的強度、耐熱性、耐薬品性などの特殊な機能を持つエンブラ※1分野のリーディングカンパニーであり、自動車の軽量化や電装化、電子機器の高性能化などに貢献しています。ダイセルミライズ社は、日用品から自動車まで多目的な用途を持つAS樹脂や、近年注目されるEV用の水溶性高分子(CMC※2など)と、様々な商材を幅広い産業に展開しています。

※1 エンブラ…エンジニアリングプラスチック

※2 CMC（カルボキシメチルセルロース）…天然素材であるセルロースを原料としたCMCダイセルは、ダイセル独自の技術で開発した水溶性高分子

2025年3月期実績

売上高

営業利益

2,480億円 270億円

■ダイセルグループの強み

1 ポリプラスチック：新しいアプリケーションの開発力

エンブラ業界のエキスパート集団として、時代と共に移り変わる主要産業（電機や自動車産業など）や社会ニーズに応えるアプリケーションを顧客とともに開発。グループ企業が持つ幅広い製品ラインナップを掛け合わせ、最適なソリューションを提供。

2 ポリプラスチック：主要地域に広がる技術ソリューション

アジアや欧米6拠点にある各テクニカルソリューションセンターが相互に連携。素材の処方設計から成形加工支援まで、一貫したソリューションをグローバルに提供。

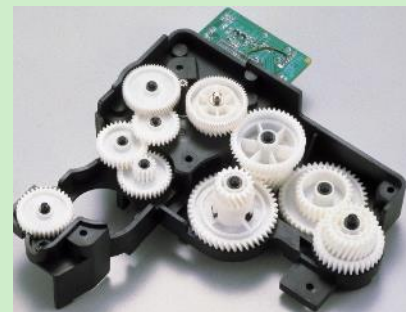
3 ポリプラスチック：高度な製造技術と、同一品質のクイックデリバリー

50年以上にわたり蓄積してきたエンブラの製造技術に、ダイセル式生産革新を掛け合わせ、さらなる生産高度化を推進。グローバルに同一品質かつクイックデリバリーで提供

■主要な製品

ポリプラスチック

ポリアセタール（POM）、ポリブチレン・テレフタレート（PBT）、ポリフェニレン・サルファイド（PPS）、液晶ポリマー（LCP）、環状オレフィン・コポリマー（COC）



ポリアセタール（POM）を用いたギヤ

ダイセルミライズ

水溶性高分子（CMC）、包装用バリアフィルム、AS樹脂



CMCを使ったリチウムイオン電池

中期戦略/ポートフォリオマネジメント

- ダイセルグループでは、中期戦略策定時に多種多様な事業を「次世代育成」「成長牽引」「基盤事業」「改革事業」に分類し、毎年見直しを行いポートフォリオマネジメントを推進し、選択と集中を進めています。
- 各事業の業界成長・競争環境・売上高成長率・営業利益率・事業特性を鑑み、2025年3月期においては、有機半導体事業、高発泡プラスチック事業の撤退、樹脂コンパウンド事業も新たに設立した持分法適用会社へ移管しました。
- アセチルチェーン強化を目的に「基盤事業」のアセテート・トウ製造会社（富山フィルタートウ社）を完全子会社化し、ダイセルの網干工場・大竹工場の3拠点一体運営により、生産計画の柔軟性を高め、需要に応じた最適生産による収益強化を図っていきます。

次世代育成

- | | |
|-------------|---------------|
| ◆ 化粧品原料 | ◆ 医薬品受託開発・製造* |
| ◆ 健康食品 | ◆ 高機能光学フィルム |
| ◆ 分析サービス | ◆ レジスト用ポリマー |
| ◆ キラル試薬 | ◆ レンズモジュール等 |
| ◆ ゲノミクス関連製品 | ◆ 民生用火工品 |

成長牽引

- | | |
|------------|-------|
| ◆ 電子材料用溶剤 | ◆ POM |
| ◆ インフレータ | ◆ PPS |
| ◆ カプロラクトン | ◆ LCP |
| ◆ 脂環式エポキシ類 | ◆ COC |

改革

- ◆ 繊維用セルロース
- ◆ 樹脂コンパウンド・アセチ等
- ◆ OPSシート*
- ◆ 容器成型
- ◆ 高発泡プラスチック*
- ◆ 有機半導体*

基盤

- | | |
|---------------|------------|
| ◆ キラルカラム | ◆ PBT |
| ◆ TAC | ◆ 食品包装フィルム |
| ◆ アセテート・トウ | ◆ CMC |
| ◆ 酢酸及び誘導体 | ◆ 化成品等 |
| ◆ ケテン誘導体・アミン類 | ◆ メンブレン製品 |

◆ メディカル・ヘルスケア

◆ スマート

◆ セイフティ

◆ マテリアル

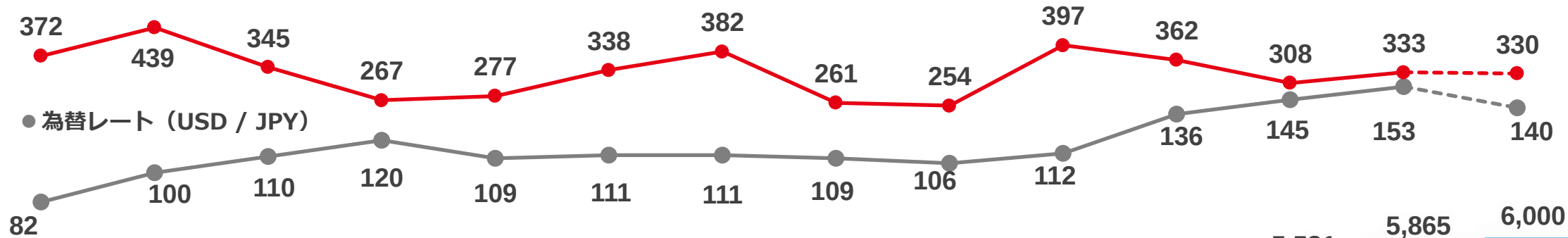
◆ エンジニアリングプラスチック

◆ その他

*は2025年3月末時点で撤退/移管済

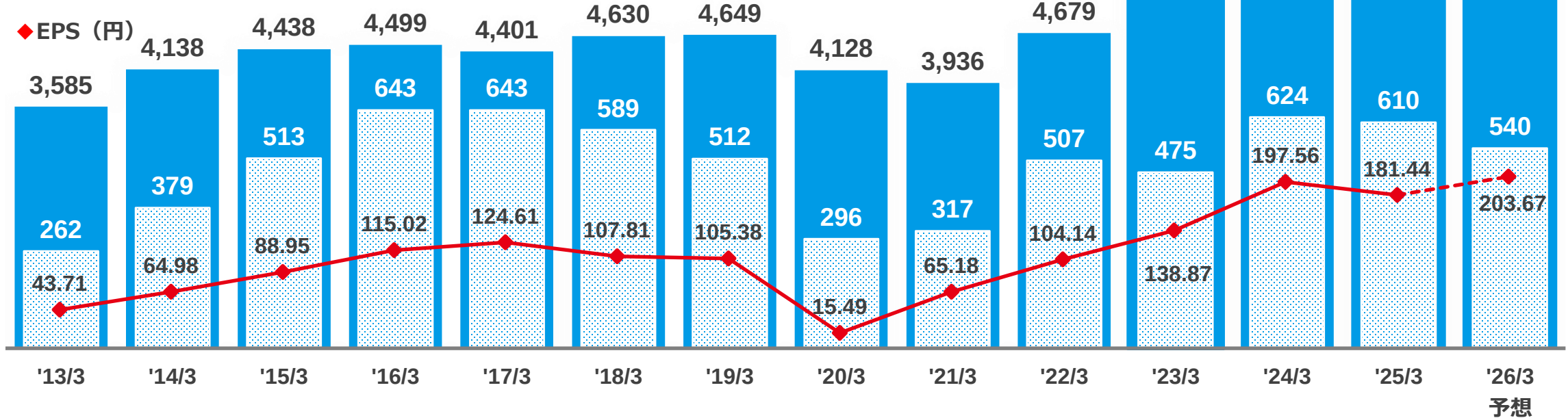
業績（売上高・営業利益・EPS）の推移

●メタノールアジアスポット価格（USD / ton）



■売上高・□営業利益（億円）

◆EPS（円）



'15/3

他社におけるエアバッグ大規模
リコール/
代替生産によるインフレタ緊
急増産（ダイセルグループ）

'18/3

インフレタ緊急増産
収束（ダイセルグループ）

'20/3

COVID-19 パンデミック

'22/3

ロシアによるウクライナ
侵攻、半導体不足、
物流混乱

'24/3

ダイセルグループ
COプラント稼働

'25/3

ダイセルグループ
POM、LCP増産
プラント稼働

株主還元

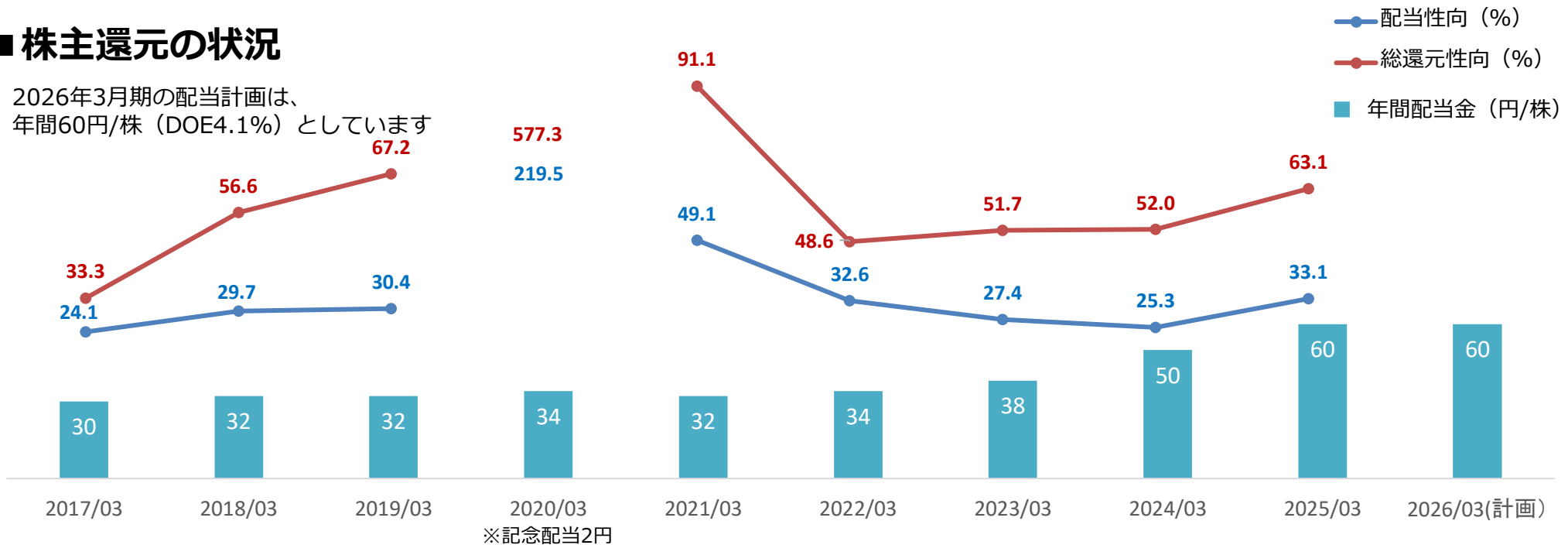
■株主還元方針

各年度の「DOE（株主資本配当率）4%以上」かつ「総還元性向40%以上」を

ターゲットとし、機動的な自己株式取得も視野に入れます。

■株主還元の状況

2026年3月期の配当計画は、
年間60円/株（DOE4.1%）としています



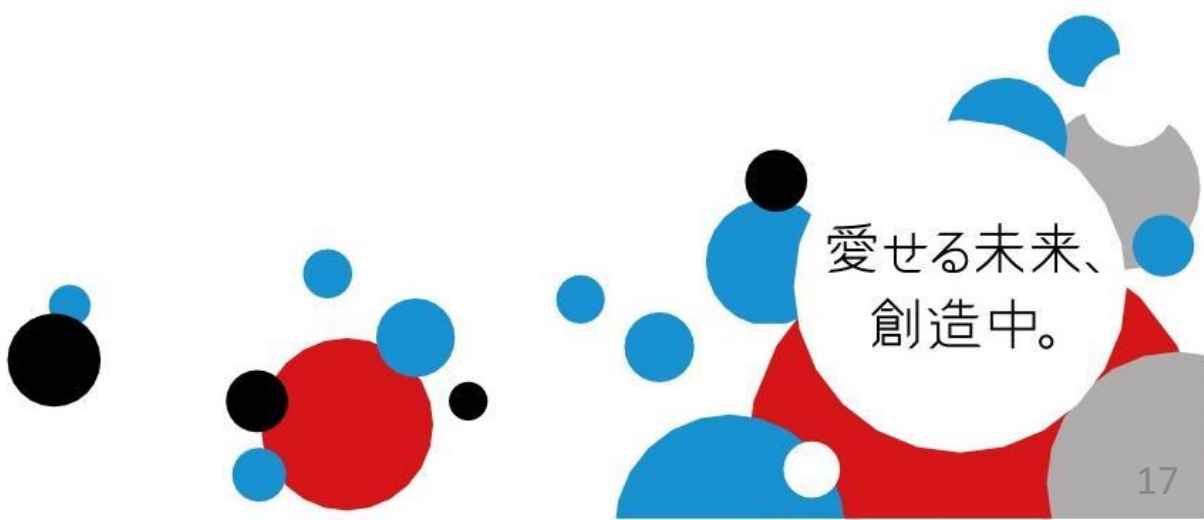
■最近の自己株式の取得・消却状況

2020年3月期 約178億円の自己株式取得を実施、1,600万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 4.82%）
2021年3月期 約83億円の自己株式取得を実施、1,300万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 4.11%）
2022年3月期 約50億円の自己株式取得を実施
2023年3月期 約100億円の自己株式取得を実施、1,600万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 5.28%）
2024年3月期 約150億円の自己株式取得の実施、1,000万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 3.49%）
2025年3月期 約150億円の自己株式取得の実施
2026年3月期 1,000万株の自己株式消却を実施（消却前発行済株式総数に対する割合 3.61%）

国内事業所



Appendix

A decorative graphic in the bottom right corner of the slide. It features a cluster of overlapping circles in blue, red, black, and grey. A white circle is positioned in the center of this cluster, containing the Japanese text "愛せる未来、創造中。".

愛せる未来、
創造中。

連結貸借対照表



単位：億円		2024年 3月末	2025年 3月末	増減
流動資産		4,095	3,956	△139
	現金及び預金	732	651	△80
	受取手形及び売掛金	1,144	1,139	△5
	棚卸資産	1,825	1,779	△46
	その他	394	387	△7
固定資産		4,297	4,182	△115
	有形固定資産	3,089	3,194	+105
	無形固定資産	108	106	△1
	投資その他資産	1,100	881	△218
資産合計		8,392	8,138	△253
負債		4,638	4,388	△250
	有利子負債	3,041	2,861	△180
	その他	1,596	1,527	△70
純資産		3,754	3,750	△4
負債純資産 合計		8,392	8,138	△253

連結キャッシュ・フロー計算書



単位：億円		2024/3	2025/3	増減
	営業キャッシュ・フロー	767	934	+167
	投資キャッシュ・フロー	△ 554	△479	+75
フリーキャッシュフロー		214	455	+242
財務キャッシュ・フロー		△ 524	△489	+35
その他		59	△3	△63
現金及び現金同等物の増減額		△ 251	△36	+214
現金及び現金同等物の当期末残高		684	648	△36

セグメント別 売上高・営業利益（2025年3月期実績 前期比較）

単位：億円	売上高			
	2024/3 実績	2025/3 実績	対前年度	
			増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	139	144	+5	+3.7%
スマート	338	373	+35	+10.4%
セイフティ	956	976	+20	+2.1%
マテリアル	1,822	1,834	+12	+0.6%
エンジニアリングプラスチック	2,268	2,480	+212	+9.3%
その他事業	57	58	+1	+1.6%
合 計	5,581	5,865	+285	+5.1%

単位：億円	営業利益			
	2024/3 実績	2025/3 実績	対前年度	
			増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	8	3	△5	△67.0%
スマート	△9	△8	+1	-
セイフティ	30	39	+9	+31.4%
マテリアル	408	296	△112	△27.4%
エンジニアリングプラスチック	183	270	+87	+47.6%
その他事業	4	10	+5	+128.7%
合 計	624	610	△14	△2.2%

EBITDA	
2024/3 実績	2025/3 実績
20	13
23	20
103	111
539	496
267	368
10	16
961	1,024

※ 比較のため、2024年3月期実績は、以下のセグメント変更を反映：
TAC（スマート→マテリアル）、脂環式エポキシ・カプロラクトン誘導体（マテリアル→スマート）

2026年3月期 業績予想 セグメント別 売上高・営業利益

	売上高				営業利益				EBITDA	
	2025/3 実績	2026/3 予想	増減	増減率	2025/3 実績	2026/3 予想	増減	増減率	2025/3 実績	2026/3 予想
単位：億円										
メディカル・ヘルスケア	144	155	+11	+7.4%	3	3	+0	+14.9%	13	13
スマート	373	405	+32	+8.5%	△8	14	+22	-	20	39
セイフティ	976	1,010	+34	+3.5%	39	64	+25	+62.8%	111	145
マテリアル	1,834	1,815	△19	△1.0%	296	230	△66	△22.4%	496	411
エンジニアリングプラスチック	2,480	2,560	+80	+3.2%	270	221	△49	△18.2%	368	349
その他事業	58	55	△3	△4.6%	10	8	△2	△17.1%	16	13
合 計	5,865	6,000	+135	+2.3%	610	540	△70	△11.5%	1,024	970

設備投資額の推移

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 実績 (※1)	2026/3 予想 (※1)
単位：億円								
メディカル・ヘルスケア	87	10	27	22	19	19	9	15
スマート	20	29	42	42	26	30	23	40
セイフティ	88	77	90	90	94	94	110	120
マテリアル	116	188	86	91	174	169	115	240
エンジニアリング プラスチック	71	74	306	306	457	457	433	290
その他事業・全社	14	30	12	12	4	4	3	5
合 計	396	408	563	563	775	775	695	710

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

減価償却費の推移

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 実績 (※1)	2026/3 予想 (※1)
単位：億円								
メディカル・ヘルスケア	14	14	28	15	11	11	11	10
スマート	16	20	27	27	29	31	28	25
セイフティ	47	50	65	65	71	71	71	80
マテリアル	90	90	97	110	131	129	199	180
エンジニアリング プラスチック	69	70	86	86	82	82	95	125
その他事業・全社	22	25	6	6	6	6	6	5
合 計	258	269	308	308	330	330	410	425

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

研究開発費の推移

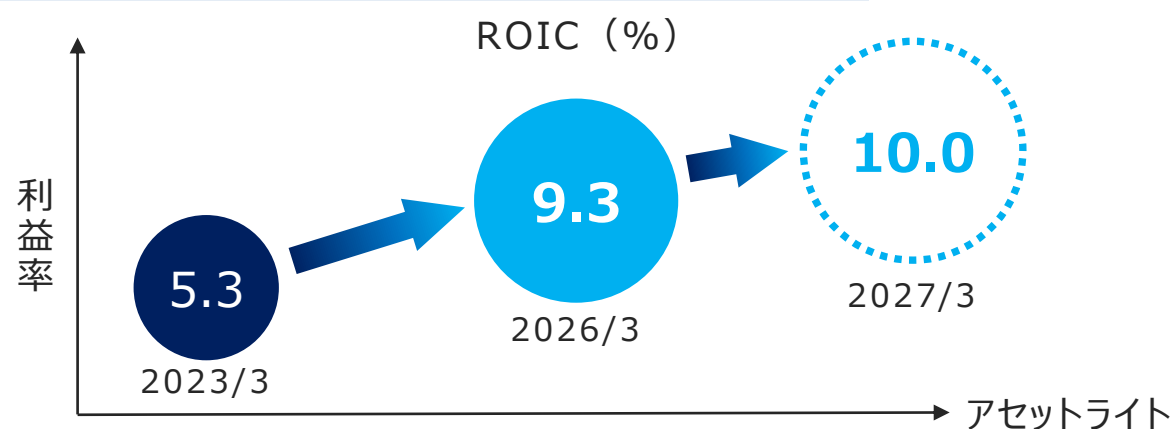
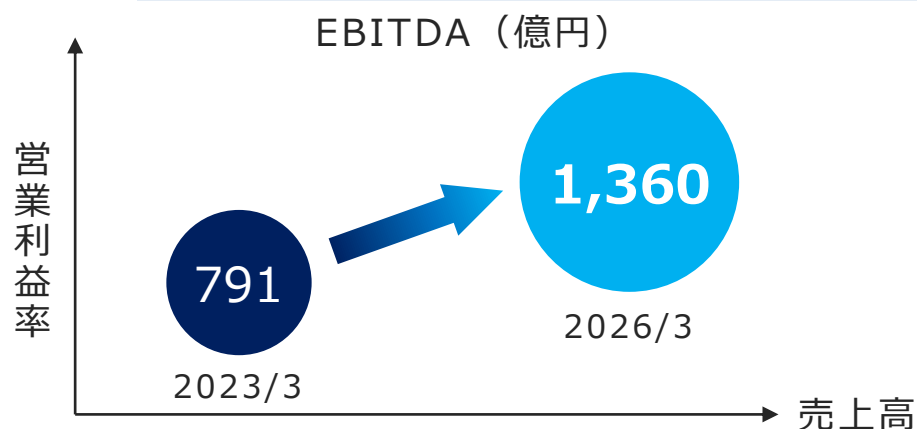
	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 実績 (※1)	2024/3 実績 (※1・3)	2025/3 実績 (※1)	2026/3 予想 (※1)
単位：億円								
メディカル・ヘルスケア	21	19	22	28	24	24	27	30
スマート	27	36	42	42	40	48	50	42
セイフティ	51	56	63	57	60	60	72	80
マテリアル	16	15	28	28	38	31	35	35
エンジニアリング プラスチック	35	37	61	61	68	68	73	80
その他事業・全社	46	45	3	3	3	3	3	3
合 計	195	207	219	219	234	234	259	270

※1 2023年3月期より全社費用配賦方法を見直し、「その他事業・全社」には「その他事業」のみの数値が記載されています。

※2 比較のため、2023年4月1日付の化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

※3 比較のため、2024年4月1日付のTAC、脂環式エポキシ、カプロラクトン誘導体のセグメント変更を反映した数値です。

- 基盤事業の収益力向上と成長分野の拡販により増益基調を維持
- EBITDAのさらなる向上
- バランスシート拡大を抑制し、2027年3月期にはROIC 10%を目指す



単位：億円	2023/3 (実績)	2024/3 (実績)	2026/3* (計画)
売上高	5,380	5,581	6,600
営業利益	475	624	820
営業利益率	8.8%	11.2%	12.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	407	558	580
為替レートUSD/JPY	136	145	120

単位：億円	2023/3 (実績)	2024/3 (実績)	2026/3* (計画)
EBITDA	791	961	1,360
ROE	14.3%	17.1%	17.1%
ROIC	5.3%	6.3%	9.3%
ROA	5.6%	7.0%	7.7%

*2026/3(計画)は2023年5月11日に発表した数字です。

- 成長投資進捗により固定資産は増加
- 販売増に伴う運転資産増加は極力抑制
- 政策保有株式の削減加速等により資金効率向上

2023/3末 実績 単位：億円

資 産	負債・資本
流動資産 4,066 現預金 935 運転資産 2,787	負債 4,552 有利子負債 3,220
固定資産 3,001 政策保有株式 589	純資産 3,104
7,656	7,656

2026/3末 ターゲット 単位：億円

資 産	負債・資本
流動資産 3,700 現預金 600 運転資産 2,800	負債 3,800 有利子負債 2,400
固定資産 3,500 政策保有株式 200	純資産 3,600
7,400	7,400

*このページに掲載の中期戦略は2023年5月11日に発表したものです。

中期戦略 キャッシュアロケーション

- 収益力強化に加え、CCC※削減(目標120日台) により資金創出力を向上
- 増加するキャッシュインを成長投資や株主還元を活用
- ➡ 利益水準の上昇およびEPS※の更なる向上
- インオーガニックな成長投資にも柔軟に対応

キャッシュイン
 (2024/3期以降3年累計) 単位：億円

営業CF	2,876
キャッシュ	2023年3月末 935
	政策保有株式売却 389
負債調達	0～

配分可能総額
4,200～

キャッシュアウト
 (2024/3期以降3年累計) 単位：億円

成長投資	1,900～
株主還元	～850
負債返済	～850
キャッシュ	600

※CCC=キャッシュコンバージョンサイクル

※EPS=一株当たり利益

*このページに掲載の中期戦略は2023年5月11日に発表したものです。

長期ビジョン『DAICEL VISION 4.0』とそれに基づく中期戦略『Accelerate 2025』を策定し、実現に向けてダイセルグループは、サステナブルな社会と当社グループの事業成長の両立を目指し、歩みを進めています。この目標の達成には、大量生産を前提とする今までの社会システムからの脱却を目指し、それには4つの大きな構造転換（以下図）が必要になると考えています。こうした取り組みを通じて、私たちダイセルは、志を共にするパートナーの皆様と共に循環型社会の構築に貢献していきます。

長期ビジョン・中期戦略で掲げた、ダイセルが循環型社会構築に貢献するために実現する構造転換

これまでの大量消費社会		循環型社会構築への貢献	
自社のみの利益を優先する戦略	>>>>	1	新企業集団の形成
化石資源をベースにした経済活動	>>>>	2	新バイオマスプロダクトツリーの実現
二酸化炭素の排出増加とエネルギーの大量消費	>>>>	3	カーボンオフセット・エネルギーオフセットの実現
そこから生まれるプロダクトによる未来を無視した社会の形成	>>>>	4	4つの注力領域における幸せの提供 [1.健康 2.安全・安心 3.便利・快適 4.環境]

新企業集団の形成

社会構造を変えていくためには、社会や環境のために新たな価値を共に創造できる集団「新企業集団」を形成することが不可欠です。私たちが手掛けるモノづくりは、最終製品に至る工程の一つにすぎず、その工程がいくつもつながりサプライチェーンを形成します。そこでつながる各社の得意分野を掛け合わせれば、一社が試行錯誤する以上に、効率的なモノづくりが可能になり、さらにより良い製品や環境にやさしい製造方法を生み出すことができます。こうした企業間による垂直のつながりに加えて、同業他社のような水平方向でもつながる新たな集団のことを「クロスバリューチェーン」と呼びます。以下の図は、このクロスバリューチェーンに至るまでの道のりを、ダイセル単体→ダイセルグループ→パートナーへと範囲を広げる3つのオペレーション（以下、OP）で段階的に示したものです。

成長と加速曲線

【実現のためのオペレーション】

Operation-I(OP-I) 原ダイセル

現状の事業に加え注力するドメインを含めた領域

- 事業構造の転換(事業の選択と集中⇒価値提供型組織へシフト)
- アセットライト化
- OP-II/IIIの成長を加速させる構造改革

Operation-II(OP-II) 新ダイセル

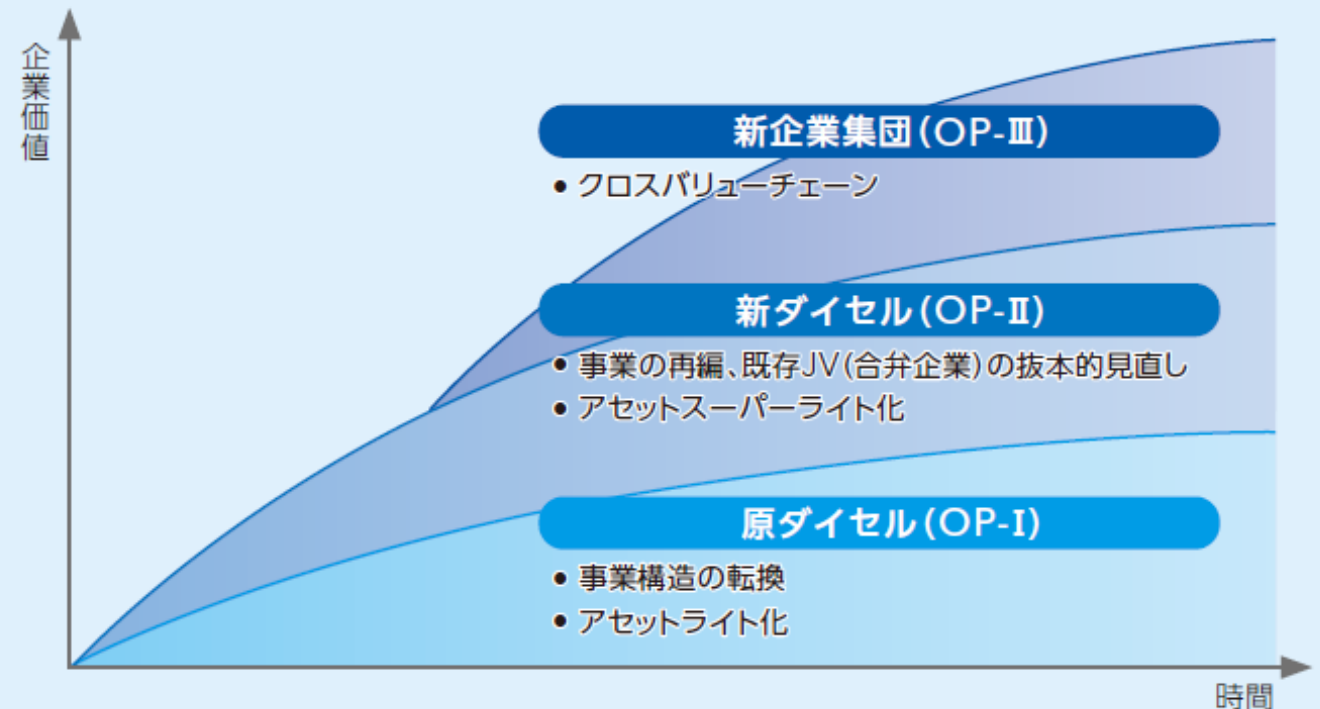
既存事業の周辺領域でM&Aや提携による領域拡大

- 事業再編、既存JVの抜本的見直し
- アセットスーパーライト化
- OP-IIIが狙える高付加価値企業

Operation-III(OP-III) 新企業集団

垂直統合型のサプライチェーンに水平方向の統合を視野に入れたクロスバリューチェーン

- M&Aにこだわらず、多様なつながりでNo.1サプライチェーンを構築



バイオマスバリューチェーン構想

国土の約7割が森林である日本。樹齢50年超の森林はCO₂を吸収せず、ほとんどが放置されています。当社は溶かすことが難しい木材を穏和な条件と環境負荷が少ない方法で溶かす技術を開発し、森の木を石油化学原料の代替として活用。CO₂を吸収しやすく、土壌の保水能力が高い森林に再生、産業資源を循環させる。それが、ダイセルの掲げる「バイオマスバリューチェーン（以下、BVC）構想」です。循環型の産業生態系をつくるこのビジョンの達成には、多くの方々からの賛同と共感、産業間の連携による共創が不可欠です。



林業再生による「森の復活」



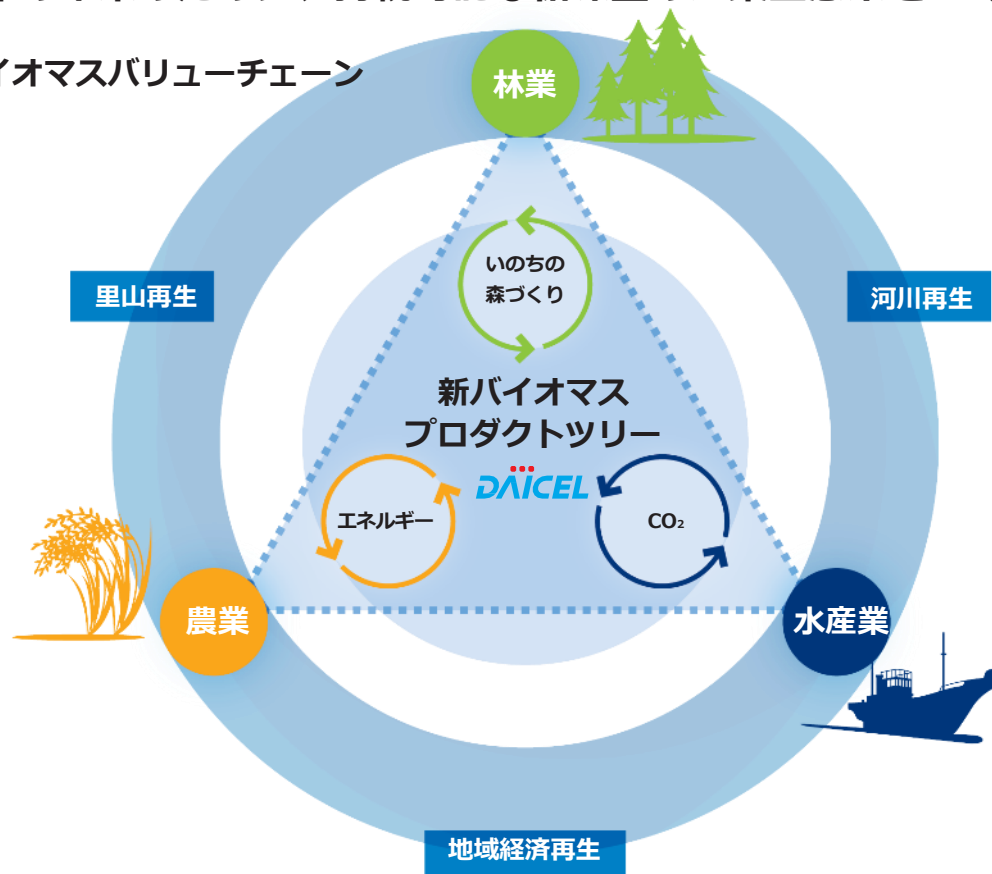
水質改善による「海洋資源の再生」



落葉広葉樹林帯の再生による「農地の肥沃化」

日本の未来のために、持続可能な循環型の産業生態系をつくる。

バイオマスバリューチェーン



新バイオマスプロダクトツリー

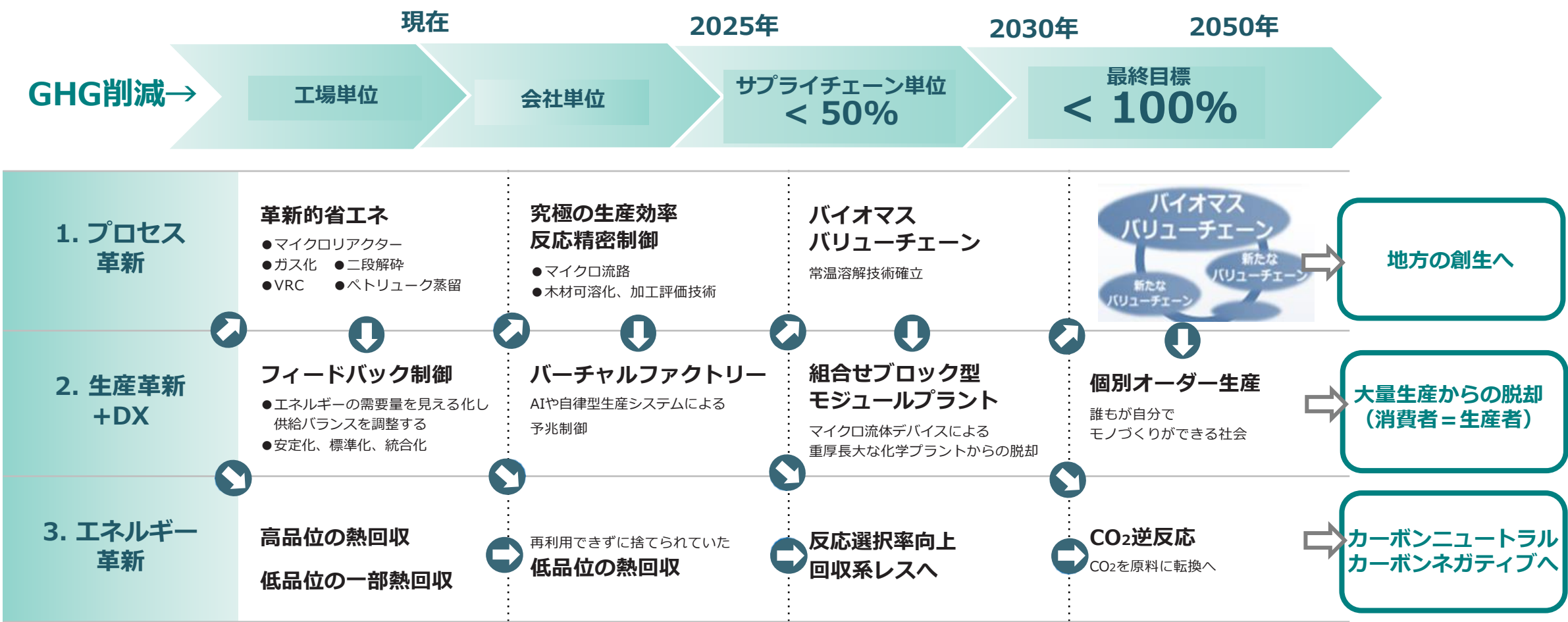
BVC構想を実現する鍵となるのが、「新バイオマスプロダクトツリー」です。サステナブルなプロダクトを提供することは、素材メーカーの使命です。しかし、そのプロセスもサステナブルでなければなりません。一本の木を少しも無駄にしないことをテーマに、環境負荷を極力抑えながら、あらゆる素材を丸ごと加工する技術を開発し、天然素材でも高機能なプロダクトを生み出します。設立以来、バイオマス原料を扱ってきた当社だからこそ、カーボンニュートラルを実現し、化学の力でエコロジーとエコノミーを両立させながら循環型社会の構築を目指すことは、当然の成り行きです。

産学連携による共同技術開発

エコロジーとエコノミーの両立、新バイオマスプロダクトツリーの実現に向け大学との技術連携を進めています。たとえば、化学プラントの小型化の鍵となる「マイクロ流体デバイス」（P34参照）や、低コストかつ低環境負荷で木材を分解する「超穏和溶解」など。

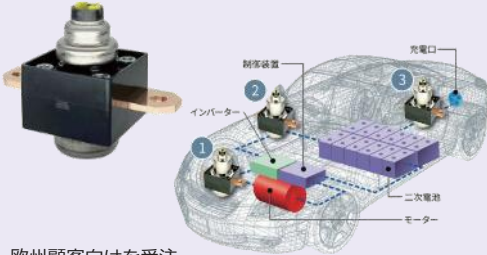
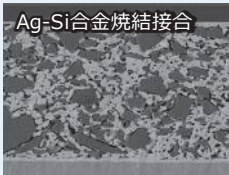
カーボンニュートラル・ネガティブ実現に向けて

ダイセルでは「2050年カーボンニュートラル」の達成に向け、脱炭素化への取り組みを推進しています。そのための施策として、プロセス・生産・エネルギーなどの分野における技術革新を相互に連動・促進させながら、当社の目指すバイオマスバリューチェーンを構築し、CO₂排出量が吸収量を下回る「カーボンネガティブ」を達成します。当社グループは、技術革新によりエコロジーとエコノミーの両立を実現していきます。



4つの注力領域による幸せの提供

ダイセルは社会と人々の幸せに貢献するモノづくりを目指しています。長期ビジョンでは、数ある社会課題の中から、今後ニーズが高まり、かつ、当社グループの強みを生かせるという観点から 4つの注力領域「健康」「環境」「安全・安心」「便利・快適」と、それぞれの分野で注力する市場を定めています。

健康	環境	安全・安心	便利・快適
医療材料 ● DDS※/医療機器 ● 医療機器/包装材料（エンジニアリングプラスチック） バイタルセンサー ● ナノダイヤモンド 腸内代謝物ベースの機能性食品素材 ● エクオール ● ウロリチン ※DDS…ドラッグデリバリーシステム	環境配慮型ソリューションビジネス グリーンケミカル ● 既存自社ケミカルチェーンの見直し ● 真球微粒子BELLOCEA® ● ファインセルロース ● 新規セルロース誘導体	電気自動車向け対応 ● 電流遮断器の量産化 ● インフレータ・電流遮断器の中国・欧米への拡販 企業間連携によるセンシング技術との融合 ● 日常生活における安全機器への参入 ● 転倒検知によるけが防止機器	加工技術の向上による新機能の開発・展開 ● フィルム技術 ● コーティング技術 無機有機複合電子材料 電子デバイス用途素材 ● オプティカルレンズなど
機能の意訳によって加速する新事業化			
新規投与デバイス アクトラン® ラボ（動物実験用デバイス） 	ファインセルロース  2023/5 G7広島サミットへ 海洋生分解性酢酸セルロース樹脂 カトラリーを提供	EV用電流遮断器  欧州顧客向けを受注 2025年度上市予定	パワーエレクトロニクス Ag-Si合金焼結接合  Si含有量増加によるコストダウンと性能向上を達成 半導体マスキング ナノひっつき虫TM  半導体オブザイヤー2023 優秀賞受賞 (半導体電子材料部門)
まずは、日本・欧米で医療機器として事業展開を目指す	2031/3 売上ターゲット400億円超	2031/3 売上ターゲット400億円超	2031/3 売上ターゲット500億円超

Topic 1 エコロジーとエコノミーの両立

— 大量生産・消費から個別オーダー・個人生産へ —

環境にやさしいプロセスで作る環境にやさしい製品を目指す

ダイセル独自の溶かす技術を化学プラントに応用したのが「マイクロ流体デバイス」です。マイクロ流体デバイスでは、不純物の発生が抑えられ、内臓する流路の精密なコントロールが可能になりました。これにより、設備コストの圧縮だけでなく、さらなる省エネ、省スペース、省資源化が見込まれます。

個人や家庭、地域単位でモノづくりの楽しさが享受できる社会へ

現在の化学 プラント

エネルギー多消費大量生産
重厚長大な設備（大規模精製工程）
温度・濃度 分布大
目的のモノだけを作れない（低効率）

マイクロ流体 デバイス

必要なときに必要な場所で生産
小型・卓上化（精製工程不要）
温度・濃度 分布極小化
目的のモノだけを作る（理想的な反応）

●大規模工場が不要

●大規模物流が不要

●プラントの危険性回避

●一極集中から分散へ

●移動しながら製造も可能

●極少滞留量のため安全性増大

Topic 1 エコロジーとエコノミーの両立

— 大量生産・消費から個別オーダー・個人生産へ —

マイクロ流体デバイスプラントの特長

①生産設備の超小型化

名刺サイズのガラス板をつなぎ合わせ、1つのユニットを構成。ガラス板の流路のデザインを組み合わせることであらゆる化学製品に対応でき、1ユニットを並列化することで生産量を増やすことが可能。さらに、実験室での結果を工業化する際もガラス板の数を増やすだけで再現可能。

②エネルギーレス化

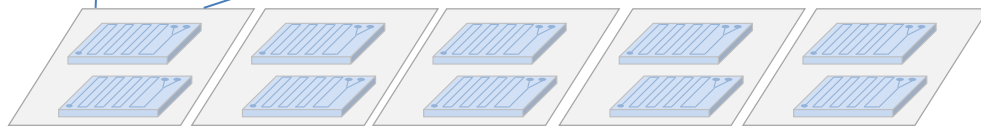
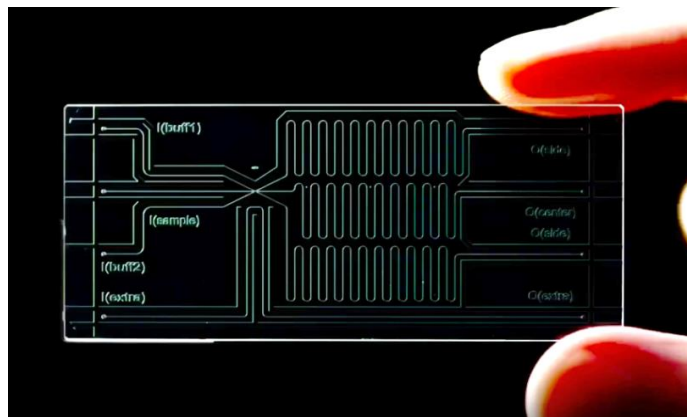
超微細な流路の中では、温度や圧力にムラがなくピンポイントかつスピーディに狙った反応を生み出すことが可能。ムダな反応も起こりにくいため生産物の純度が高く、余計なものを分離する後工程も不要。新井工場のレジストポリマー製造プラントに実装した場合、エネルギー使用量・CO₂排出量共に90%以上削減できると見込む。

③生産拠点の自由化

超小型・エネルギーレス・低コストで設備が構築できるため、生産拠点の自由度が飛躍的に高まる。原料のある場所に生産拠点を置くことで地産地消が容易になり、輸送にかかるコストやエネルギーも大幅に削減。

コーポレートサイト『マイクロプラント』 <https://www.daicel.com/microfluidics/>

流路サイズ：数十～数百 μm ×数m



1流路＝10枚直列（10D）

Topic 2 循環型社会の実現に向けた取り組み

CO₂を資源に変える「ナノダイヤソリューション」と「溶かす技術」で得られる新素材

世界初、「太陽光」でCO₂を半永久的に分解する技術

ダイセルは、エアバッグ用インフレータの製造技術で培った火薬工学技術を応用し、極めて高効率にナノダイヤを生成できる技術を獲得し、その応用開発を進めることで、太陽光だけでCO₂を分解する技術確立しました。CO₂分解の際、大量の電力を使わず、太陽光を照射するだけで周囲の空間に生成される水と電子によって、高効率でCO₂を一酸化炭素と酸素に分解し続けられることも実証しています。ナノダイヤは硬く、化学的な安定性があり、いかなる酸やアルカリとも反応しない特性を持つ、3～5ナノメートルの超極小微粒子で、その反応は半永久的に続きます。

新バイオマスプロダクトツリーの鍵となる技術

これまで、木材よりも石油化学樹脂が普及してきたのは、液体の石油は固体の木より溶けやすく、様々な反応物を低コストで容易に作れるためでした。この課題を乗り越えるべく、当社は大学との共同研究を通じて、より少ないエネルギーで「木材を溶かす」技術開発に努めてきました。確立すれば、広範な分野で新たなバイオマス製品群が創出され、石油化学製品の代替や補完の可能性が見えてきます。

● 開発事例（木材から生まれた新素材MoCA※）

木材に含まれるリグニンなどを選択的に溶解し、セルロースを分離する技術確立することで、新素材MoCAの抽出に成功しました。



木粉



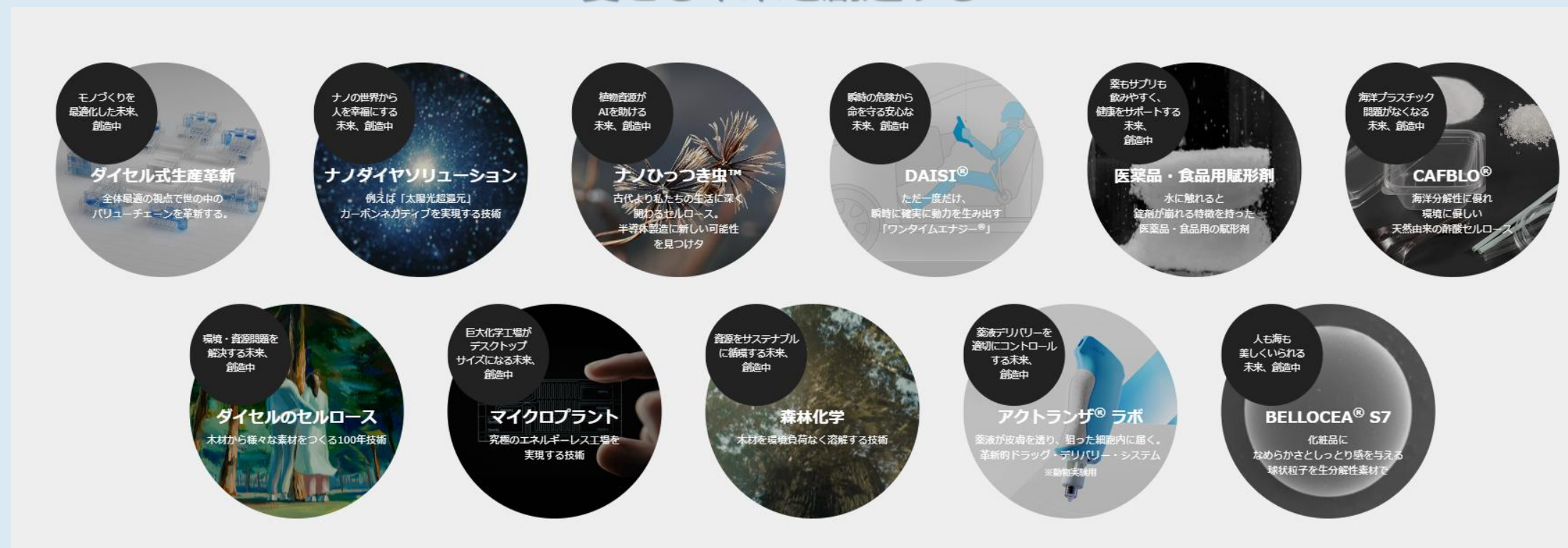
木粉から分離した新素材MoCA

※Molecular Cellulose Assembly : 分子性セルロース集合体

ダイセルの「愛せる未来」の創造へ

設立当時から他者との共存精神を大切にしてきたダイセルは、人々の暮らしを豊かにすることを目指して、100年以上も社会に役立つ素材を開発・提供してきました。私たちの社会や環境をとりまく状況は、大きな変化を迎えています。そういった中でも、ダイセルは循環型社会構築に向けて日々研究開発を行い、同じ志を抱く仲間とともに価値の共創を広げています。これからもダイセルは無限に広がる化学の可能性を信じ、世界に誇れるモノづくりを次の時代に繋ぐため、勇気を持って変革に挑戦し続けます。

愛せる未来を創造する



愛せる未来、創造中。 | 株式会社ダイセル (daicel.com)

メディカル・ヘルスケア事業

【ライフサイエンス事業】

キラル関連事業（キラルカラムなど）

キラルカラム
世界シェアNO.1

◇ 製品の特徴

- ・ キラルカラムとは、光学異性体※を分離するカラム
- ・ 医薬品の研究・製造においては、例えば薬の副作用となる成分と、薬として有効となる成分を分離するなどに使用される

※光学異性体：鏡像異性体とも呼ばれ、同じ分子構造だが分子中の原子配列が左右の手のひらのような対象の関係にある異性体。



◇ 事業の特徴

- ・ 世界の製薬市場（創薬・ジェネリック）向けに40年以上の実績
- ・ グローバルに広がる企業・大学・研究機関の顧客基盤
- ・ 継続的な新規製品開発による豊富な品揃えでソリューションを提供
- ・ 世界5拠点（日本、中国、インド、フランス、米国）で製品販売、テクニカルサービス及び受託分取サービスを展開
- ・ 成熟市場の日欧米でシェアを維持すると同時に、成長市場の中印で高成長を継続
- ・ さらにインドにおいて成長分野である中分子医薬関連サービス事業に注力

メディカル・ヘルスケア事業

【ライフサイエンス事業】



アクトランザ®ラボ (動物実験用デバイス)

◇ 製品・事業の特徴

- ・ ガス発生を駆動力として、針を用いることなく薬液を特定の組織内に送達する
(自動車エアバッグ用インフレータ技術を応用したOne Time Energy®を活用)
- ・ 動物実験用アクトランザ®ラボを2022年6月中旬より日米欧市場で販売開始

➤ アクトランザ®ラボの特徴

1. 針なし高速ジェット注入
2. 狙ったところに届ける深度コントロール (長年培った精密な圧力制御)
3. 片手で簡便に操作可能



アクトランザ®ラボ
(動物実験用デバイス)

◇ 事業化の加速

- ・ 2023年10月に、ダイセルメディカル設立、米国で無針注射器事業を展開するPharmaJet社と戦略的資本提携
- ・ 2024年4月にダイセルメディカルで第二種医療機器製造販売業の許可を取得、2024年10月にダイセル播磨工場で医療機器製造業の許可を取得
- ・ ダイセルメディカルのもと、PharmaJet社と連携し、デバイスの医療機器承認を加速させるとともに国内外での無針注射器市場の育成を図る

メディカル・ヘルスケア事業

【ヘルスケア事業】

BELLOCEA®（酢酸セルロース真球微粒子）

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 酢酸セルロースを真球状微粒子に加工
- ・ 海洋生分解性を持ち、化粧品業界の海洋プラ問題解決貢献に期待
- ・ 欧州規制（OECD301F認証）対応グレードを2025年3月期に上市
- ・ 欧州では2035年マイクロビーズ使用の化粧品禁止を発表し、大手での代替品の使用拡大

◇ 用途

化粧品の感触改良剤として、ファンデーション、サンスクリーンなど



機能性食品素材

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 独自の嫌気発酵技術を活用したエクオール（腸内代謝物）が主力製品
- ・ 抽出技術によるユニークな素材（こんにゃくセラミド）
- ・ エクオールを中心にザクロ由来のウロリッチ®や、ホップ由来のアストロホップ®などの腸内代謝物の製品ラインナップを拡充
- ・ こんにゃくセラミドの脳機能改善やアストロホップ®の筋機能に関する機能性など、ヒト臨床試験結果を用いたマーケティング（エビデンスマーケティング）を強化



スマート事業

【ファンクショナルプロダクツ事業】



脂環式エポキシ

世界シェア
No.1

◇ 製品・事業の特徴

- ・主原料：過酢酸（自社製造）
- ・国内唯一のサプライヤー
- ・耐熱性があり、対象物を「固める」機能として使用される
- ・過酢酸を用いた世界唯一の製法により、製造工程で塩素を含まず、不純物が少ない
⇒耐久性や信頼性が要求される重電（絶縁材）、電材用途で高いシェアを誇る
- ・競合素材に比べて耐熱性が高く、低粘度で作業性に優れている
- ・40年以上蓄積してきた分子設計・解析技術を活かし、付加価値の大きい特殊エポキシのラインナップが豊富
- ・顧客ニーズに応じたテクニカルサポートをグローバルに展開

◇ 主用途

汎用用途：UVコーティング、コイル絶縁ワニス、潤滑油などの添加材など

成長用途：OLEDディスプレイの封止材、EVモーターの絶縁体、CFRP（炭素繊維含浸樹脂）、
パワーモジュール部品の保護材など

EVなど新市場向けにエポキシだけでなくプレミックス材としての販売も行っていく

◇ 製造拠点

大竹工場（広島県）



電気自動車モーター（イメージ）

スマート事業

【ファンクショナルプロダクツ事業】

カプロラクトン誘導体

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 主原料：過酢酸（自社製造）
- ・ 世界シェアトップクラス
- ・ 国内で唯一のサプライヤー
- ・ 裾野の広い用途に合わせ、多彩なグレードのラインナップを保有している
- ・ 耐熱性、耐摩耗性、低粘度で作業性に優れる
- ・ 中国、韓国、台湾にて、ウレタン業界に強い販売チャネルを保有しており、エンドユーザーやマーケットのニーズを的確に把握し、新規アプリケーションの開発・販売を行う



自動車向け塗装保護フィルム

◇ 主用途

汎用用途：ウレタン（シューソール、人工皮革、自動車や建築用の塗料、自動車内装材、透明封止材）

成長用途：ペイントプロテクションフィルム、PUパッドなど

◇ 製造拠点

大竹工場（広島県）

スマート事業

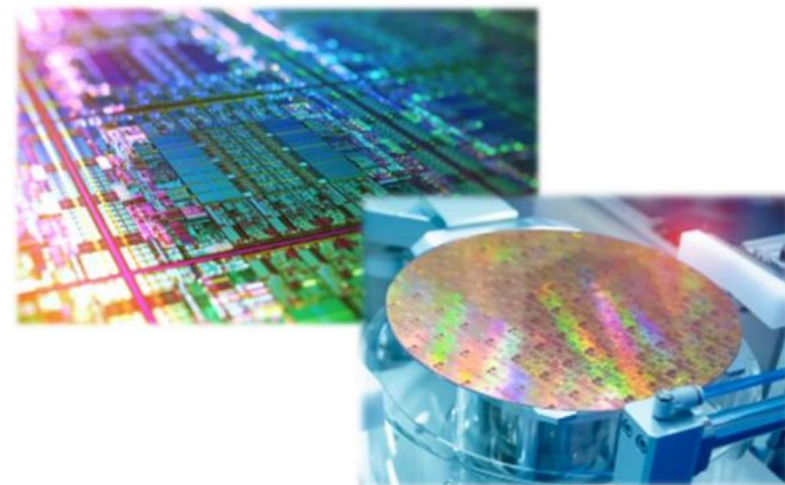
【アドバンステクノロジー事業】



フォトリソスト材料（フォトリソスト用ポリマー）

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 液浸ArF用、EUV用レジストポリマーをモノマーから設計、一貫生産
- ・ 自社内で化学構造から設計、精密合成
- ・ 金属、異物除去技術による生産・品質管理
- ・ 液浸ArF用レジストポリマーの世界シェア20%以上



◇ 主用途

半導体（主力は液浸ArF用途。EUV用途も顧客と共同開発中）

液晶ディスプレイ（当社の過酢酸を用いたエポキシ化技術により高耐熱性を実現）

◇ 製造拠点

新井工場（新潟県）

スマート事業

【アドバンステクノロジー事業】

電子材料向け溶剤（PGME、PGMEA）

◇ 製品・事業の特徴

- PGME、PGMEAを国内で唯一、一貫生産
- 半導体の微細化に対応する高純度、低メタル溶剤の幅広いラインナップ、生産・品質管理体制を有し、PGMEAは半導体フォトリソ業界で国内トップクラスのシェア

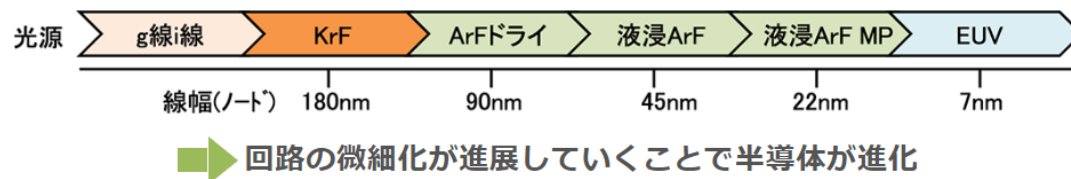
◇ 主用途

半導体や液晶ディスプレイのフォトリソ、洗浄剤

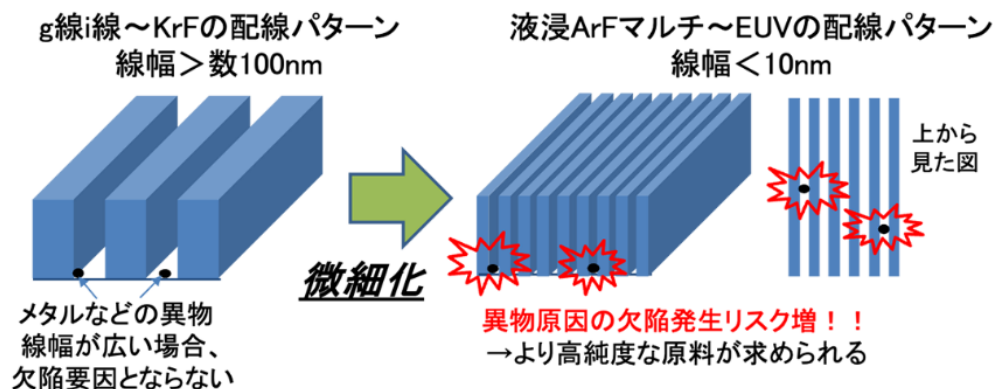
◇ 製造拠点

大竹工場（広島県）（2023年7月に設備増強）

半導体の進化と線幅（ノード）の変遷



半導体微細化に伴う原料の高純度化（イメージ）



【アドバンステクノロジー事業】

機能フィルム

◇ 製品・事業の特徴

- ・ベースフィルム（PETなど）にコーティングにより機能を付加するビジネスモデル
- ・電池用フィルム（離型フィルム）は高い世界シェア
- ・その他、低反射、指紋がつきにくい、高い抗菌・高ウィルス性能など、多種多様な機能フィルムを展開
機能の組み合わせにより付加価値を出す
- ・2022年度に外注先のグンゼ亀岡工場（現：ダイセルビヨンド）を買収し、ドライコーティング技術を獲得
- ・世界で唯一製品化した「相分離法」（ウェットコーティング）により表面微細凹凸制御技術を実現

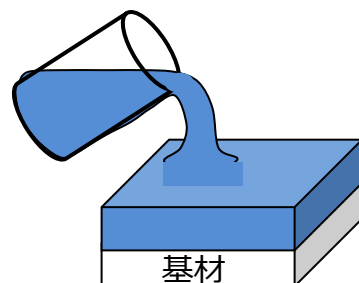
◇ 主用途

車載ディスプレイ、電池用フィルム、TV、PCなどディスプレイ、ペン入力用ディスプレイなど

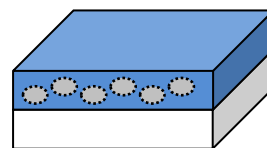
◇ 製造拠点

ダイセルビヨンド 亀岡工場（京都府）

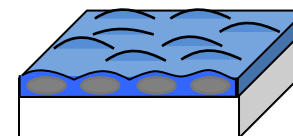
相分離法



乾燥



配合やプロセスの調整により
様々な形状の形成に活用可能



セーフティ事業

【モビリティ事業】

自動車エアバッグ用インフレーター

◆ 製品・事業の特徴

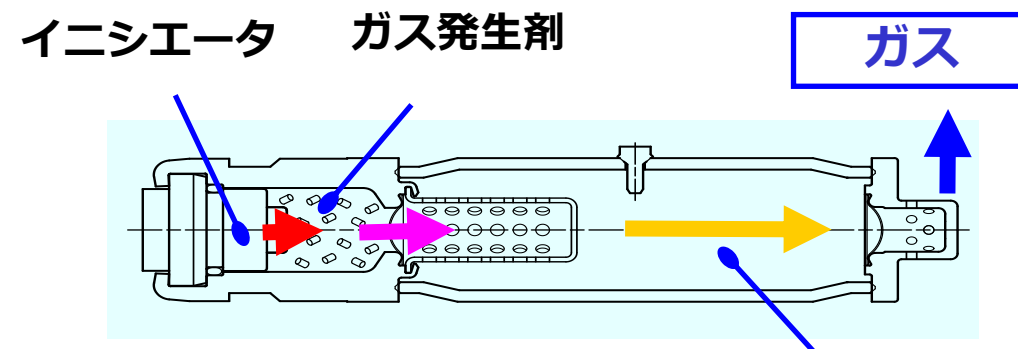
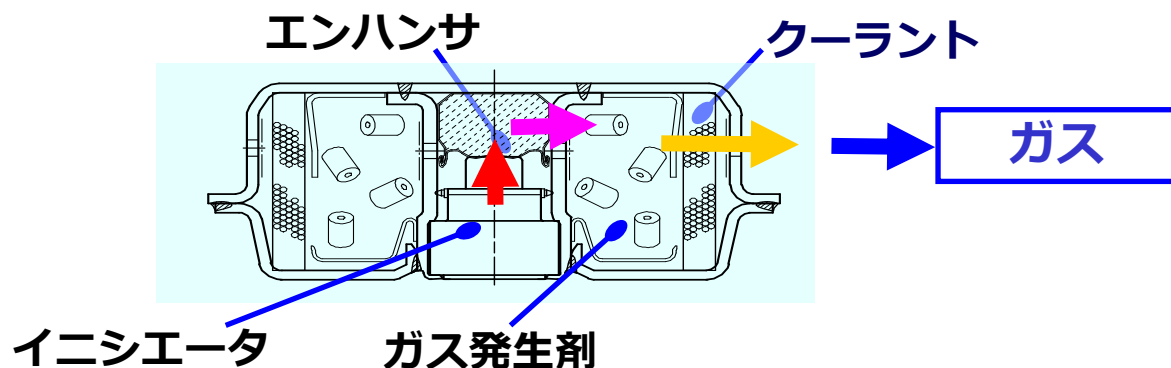
- ・1988年にエアバッグ用インフレーターを事業化して以来、主要構成部品であるイニシエータ、ガス発生剤を一貫生産
- ・エアバッグ用インフレーター専門メーカー
- ・新興国での成長需要を確実に取り込むことで2026年3月期 世界シェア25%を目標
- ・日系自動車メーカー向けを中心に、成長著しい中国系など非日系向けを積極的に開拓
- ・ダイセル式生産革新の考え方をベースにトヨタ生産方式を応用し、高い品質と生産性を追求



◆ 製造拠点

日本（兵庫県）、中国、北米（アリゾナ）、ポーランド、タイ、インド
（生産地統廃合を進め、2022年に韓国拠点を閉鎖、2023年に北米ケンタッキー拠点での製造終了。
一方、2023年10月にさらなる市場の成長が期待されるインドにて新製造拠点が商業運転開始）

◆ 構造（パイロ型、右側：ハイブリッド型）



セイフティ事業

【インダストリー事業】

電流遮断器

◆ 製品・事業の特徴

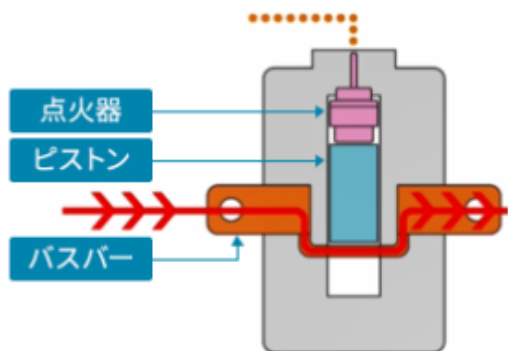
- ・ 高出力のガス圧により、緊急時に、高電圧の電流を瞬時に確実に遮断
(リレーやヒューズよりも高い信頼性)
- ・ 2025年度に欧州拠点で量産開始

◆ 主用途

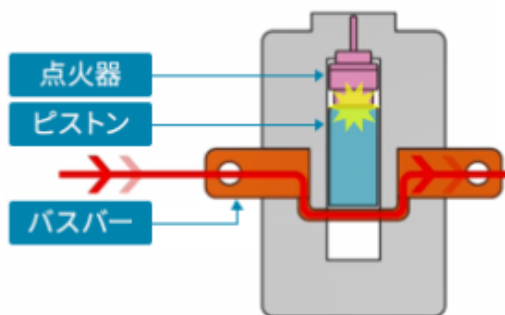
- ・ EVなど自動車用途
- ・ 産業用蓄電システム、大型バッテリーシステム、再生可能エネルギーの蓄電・送電システムなど

◆ 作動原理

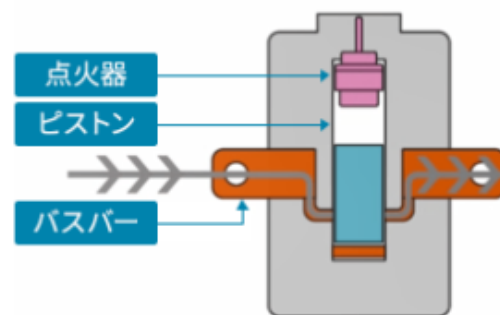
①



②



③



電流遮断器

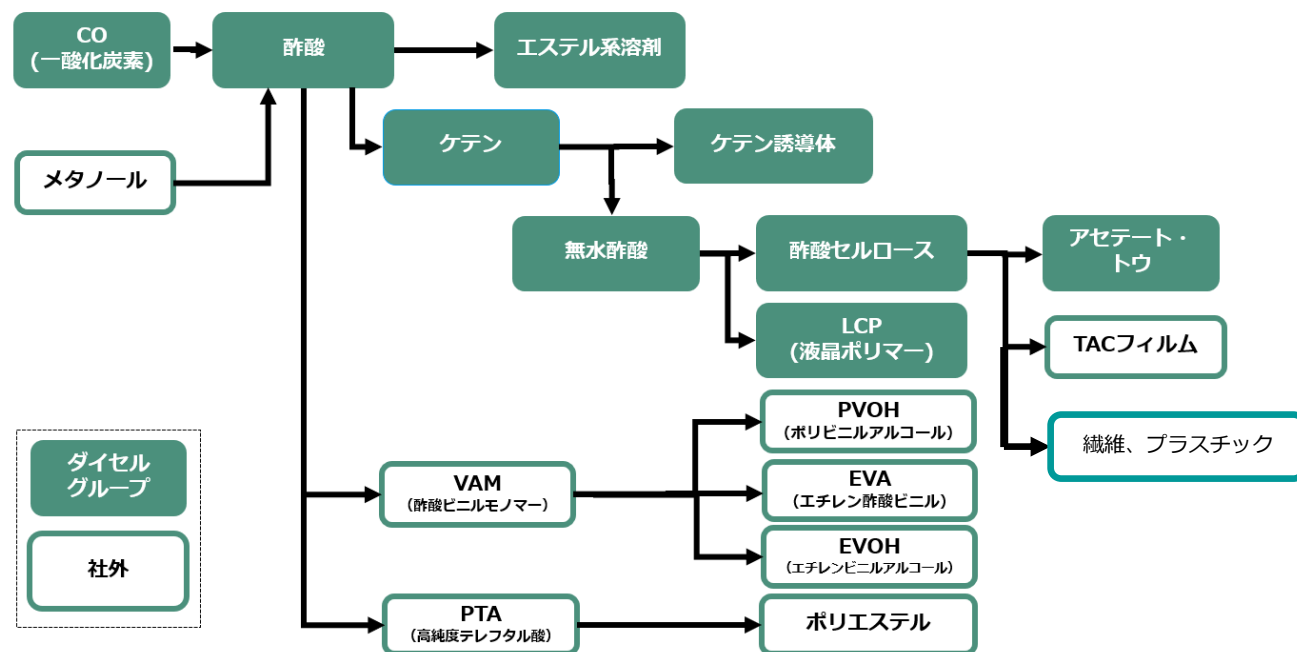
マテリアル事業

【アセチル事業】

酢酸

◇ 製品・事業の特徴

- 当社アセチルチェーン（右図）のコア製品
- 製法：メタノール法
（メタノールと一酸化炭素を反応）
- 国内唯一のメーカー
- 2024年2月、一酸化炭素製造プラント更新（老朽化更新・原料転換/アスファルトから石炭へ切り替え）
- 製造する酢酸のうち半分を酢酸セルロースやエステル系溶剤などの原料として自家消費
- 顧客や当社グループ工場で副生される酢酸を回収・再利用する循環システムを確立



マテリアル事業

【アセチル事業】

アセテート・トウ

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 主原料：酢酸セルロース（自社製造）
- ・ 世界シェアトップクラス（国内唯一のサプライヤー）
- ・ 主要顧客は世界大手のたばこメーカー。高品質と安定供給で信頼関係を長期間にわたり構築
- ・ 製造量の大部分を輸出。アジアを中心にヨーロッパや中東にも供給
- ・ 以下の背景により、アセテート・トウの需要はたばこ需要を上回って推移
 - ✓ 従来フィルターが使われていなかった地域でフィルターが実装
 - ✓ 健康志向からフィルターが長尺化
 - ✓ 今後成長が期待される加熱式たばこもアセテート・トウを使用

◇ 主用途

たばこ用フィルター

◇ 製造拠点

網干工場（兵庫県）、大竹工場（広島県）、富山フィルタートウ株式会社（富山県）



アセテート・トウ

マテリアル事業

【ケミカル事業】

酢酸セルロース

二酢酸セルロース（DAC=Di-acetyl cellulose）、
三酢酸セルロース（TAC=Tri-acetyl cellulose）を展開

◇ 製品・事業の特徴

- ・ 主原料：セルロース（木材パルプ、コットンリントー）と無水酢酸（自社製造）
- ・ 製造量の多くをアセテート・トウの原料として自家消費
- ・ 生分解性・バイオマス素材としての特徴を生かしたCAFBLO®樹脂を開発

◇ 主用途

DAC：（自家消費） アセテート・トウ、（外販）プラスチック

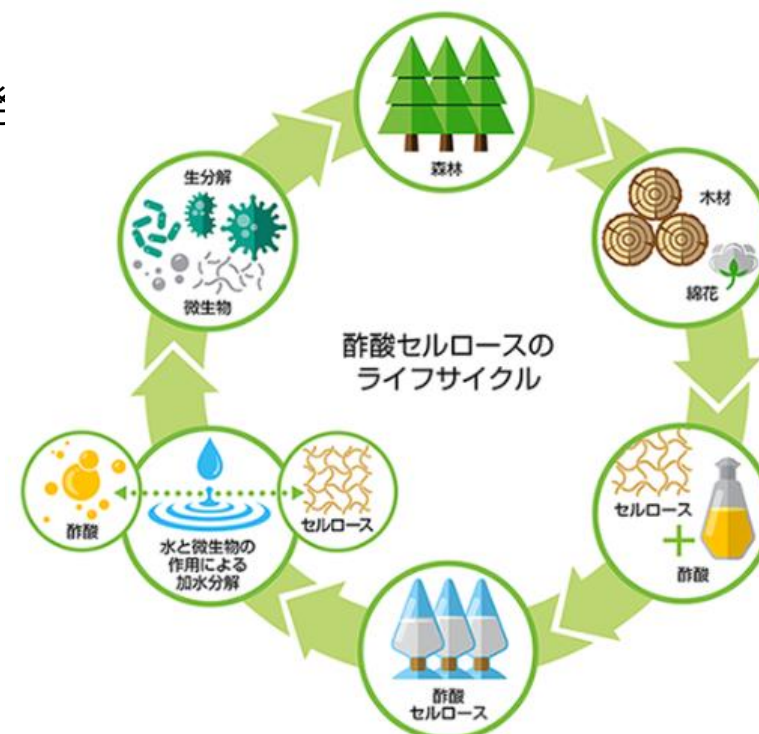
TAC：（外販） TACフィルム、繊維（次頁参照）

◇ 製造拠点

網干工場（兵庫県）、大竹工場（広島県）



CAFBLO®用途例



マテリアル事業

【ケミカル事業】

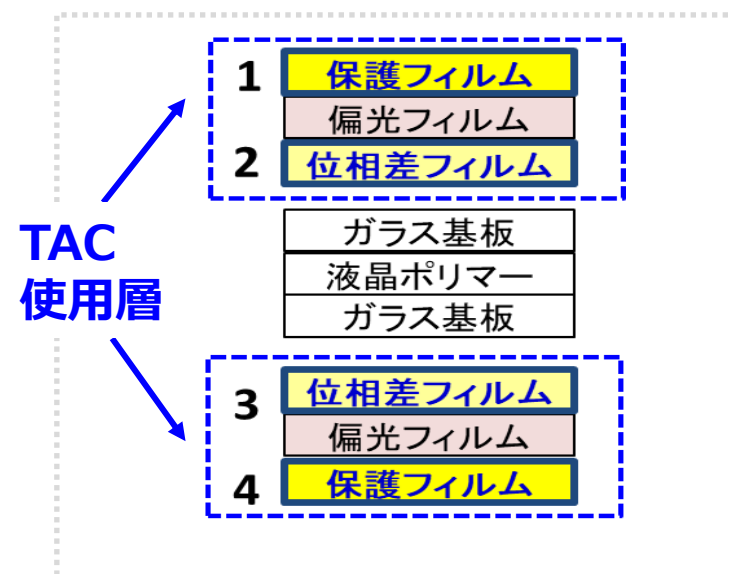
酢酸セルロース

◇ 液晶保護フィルム用酢酸セルロース（TAC）の特徴

- 主原料：セルロース（木材パルプ、コットンリントー）、無水酢酸（自社製製）
- 世界シェア：TACサプライヤーとしてトップシェア
- TACの主用途である偏光板保護フィルム及び位相差フィルムは、光線透過率など光学特性に優れた機能を有する
- 製法改善により品質のばらつきがある天然原料の使用範囲を広げながら、品質・供給の安定性、競争力をさらに強化



偏光板の構造



マテリアル事業

【ケミカル事業】

1,3-BG（1,3ブチレングリコール）

◇ 製品・事業の特徴

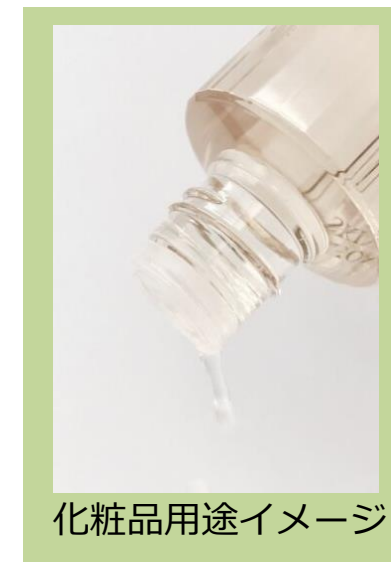
- ・ 無臭グレード品は、強い香料を好まないアジア化粧品市場で高い評価
- ・ 大竹工場と網干工場の2拠点で安定供給を実現
- ・ 日本、韓国、中国が化粧品向けの主力市場であるが、無臭グレードの市場浸透と合わせて、市場規模が大きい中国、欧米でのシェア拡大に注力

◇ 主用途

化粧品（保湿機能、抗菌機能）、工業用（ウレタン原料、樹脂可塑剤、木材湿潤剤）

◇ 製造拠点

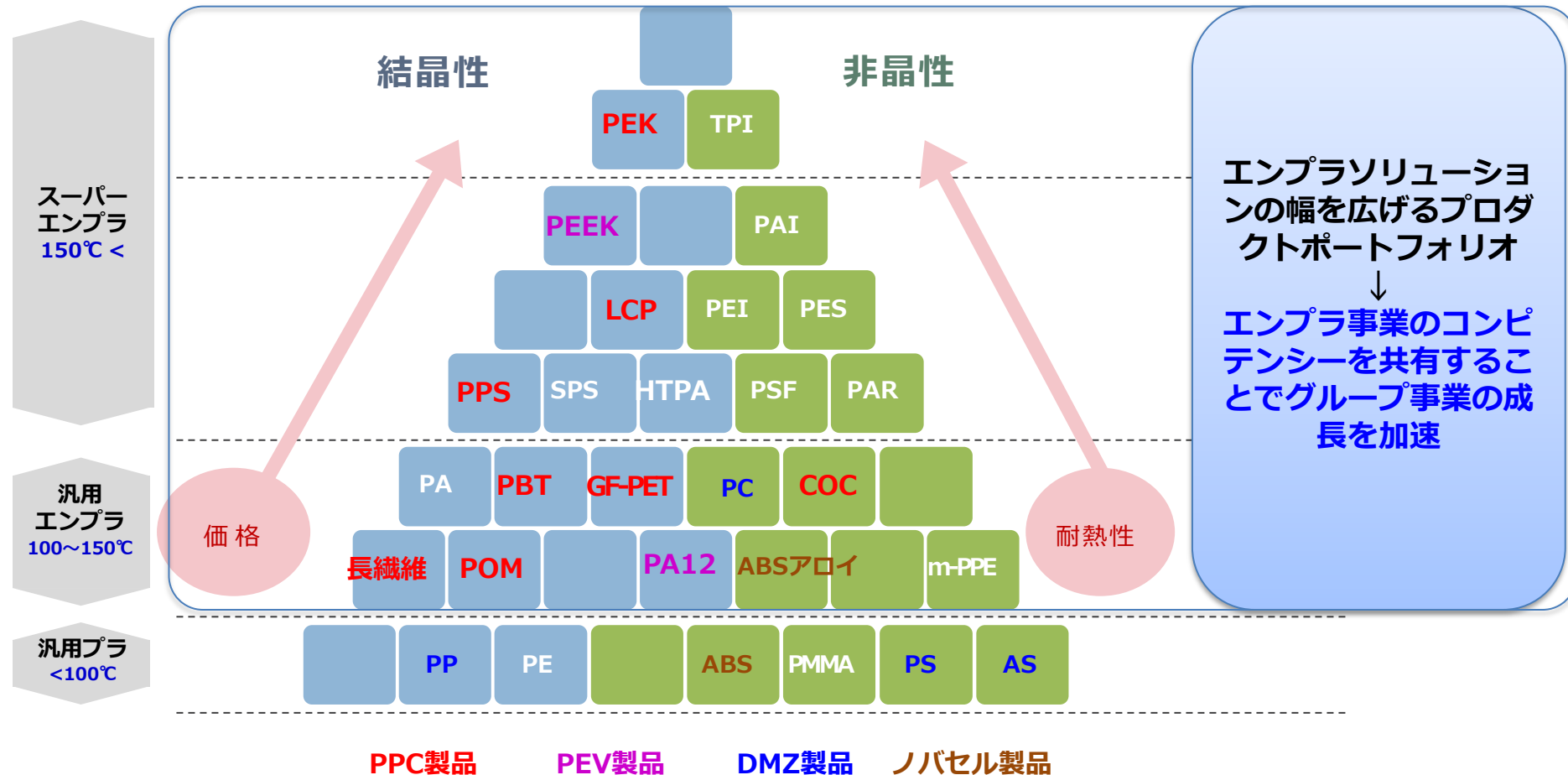
大竹工場（広島県）、網干工場（兵庫県）
（2022年8月より網干工場にて新プラント稼働）



エンジニアリングプラスチック事業

高耐熱など様々な機能が求められるエンプラの提供力を最大化するための広いポートフォリオ

- ・ グループのプロダクトポートフォリオ、テクニカルソリューションインフラを共有
- ・ アライアンス、JVなどによりポートフォリオを拡大していく方針



【連結子会社】 PPC:ポリプラスチックス（ダイセル（以下DC）100%子会社）、DMZ:ダイセルミライズ（DC100%子会社）

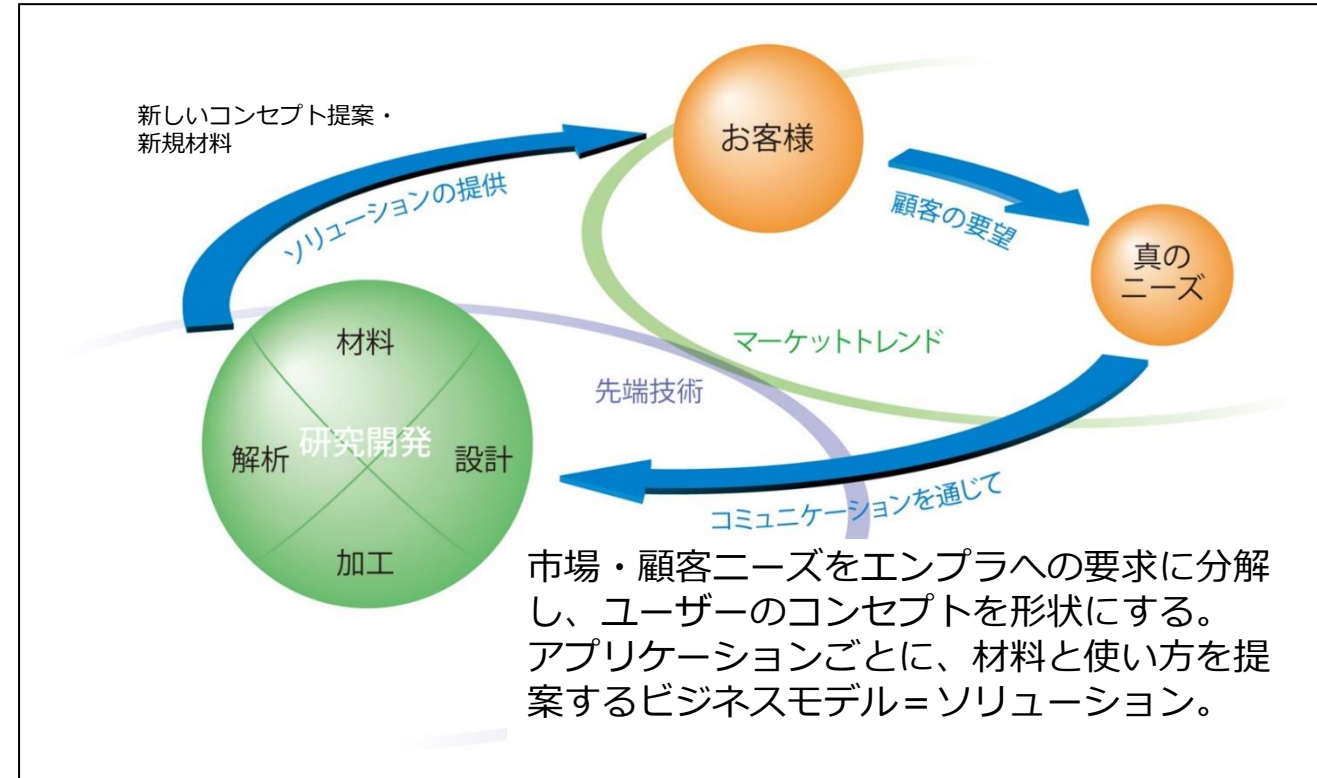
【持分法適用会社】 PEV:ポリプラ・エボニック（エボニック社50%、PPC50%）、ノバセル：DC33.3%出資

エンジニアリングプラスチック事業

【ポリプラスチックス】

◇ 事業の特徴

- 半世紀以上にわたり、エンブラ專業メーカーとしてお客様と共に時代のニーズに即したアプリケーションを開発してきた知識、経験、実績
- アジアや欧米6拠点に展開するテクニカルソリューションセンターでグローバルに連携し、素材の処方設計から成型加工まで一気通貫したサポートが可能
- グローバル市場で高いシェア（POM、LCP）



◇ 参考

1964年5月 設立（セラニーズ45%、ダイセル55%）

2020年10月 セラニーズと合併解消しダイセル100%子会社化＊

＊100%子会社により迅速な意思決定ができ、欧米市場展開の加速、ダイセルとのシナジー効果を発揮

エンジニアリングプラスチック事業

【ポリプラスチック】

POM(ポリアセタール)

◇ 製品の特徴

- ・ 主原料：メタノール
- ・ バランスのとれた機械特性、抜群の摺動特性、摩擦磨耗特性、耐薬品性（油、溶剤）、ばね弾性
- ・ EV化に向けた用途開発（例：熱源のないBEV※専用部品）や医療用途など新しい用途を開発中

※BEV（Battery Electric Vehicle）：ガソリンを使わず電気のみを使って走る車でエンジンがないのが特徴。POMは耐熱性が低いいため熱源がないBEV部品用途で開発。

◇ 主用途

- ・ 自動車用途
- ・ 諸工業用途



ドアロック



フューエルポンプモジュール



コンビネーションスイッチ

エンジニアリングプラスチック事業

【ポリプラスチック】

PBT（ポリブチレンテレフタレート）

◇ 製品の特徴

- ・ 主原料：テレフタル酸、1,4ブタジオール
- ・ 優れた電気特性と寸法安定性、高耐熱性を持ち、電子デバイス・電装品に使用される
- ・ 従来の車載コネクタに加え、ADAS（先進運転支援システム）/電動化対応での販売機会拡大

◇ 主用途

- ・ 自動車用途
- ・ 電気/電子用途
- ・ 諸工業用途



小型スイッチ



端子台※



車載センサー

※端子台：電線と電線、電線とプリント基板など、電路を形成する上での中継を行うためのパーツ。

エンジニアリングプラスチック事業

【ポリプラスチック】

PPS（ポリフェニレンサルファイド）

◇ 製品の特徴

- ・ 主原料：パラジクロベンゼン、硫化ソーダ（PPSポリマーは外部調達）
- ・ リニア型ポリマーで高い靱性と耐衝撃性を実現
- ・ 耐熱性、耐ヒートショック性、電気特性（高体積抵抗率、低誘電率 等）を持つ
- ・ PCU※、モーター、冷却装置部品などのEV/HEVの基幹部品への採用拡大

※ PCU（Power Control Unit）:モーターを利用して走るハイブリッド車や電気自動車の電力を適切にコントロールするために開発された、パワーコントロールユニット

◇ 主用途

- ・ 自動車用途
- ・ 諸工業用途
- ・ 電気/電子用途



IH炊飯ジャー・
ヒーターコイルベース



HEV モーターインシュレーター



電動VTC※

※VTC(Variable Timing Control):吸気/排気バルブの開閉タイミングをエンジンの運転状況に応じて制御するシステム。

エンジニアリングプラスチック事業

【ポリプラスチック】

LCP（液晶ポリマー）

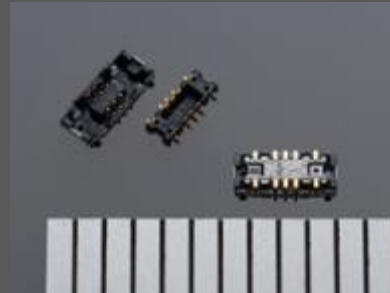
◇ 製品の特徴

- ・ 主原料：p-HBA(パラヒドロキシ安息香酸)、無水酢酸
- ・ 高い薄肉流動性(高い流動性を有し、成形条件幅が広く、様々な形状に適応可能)
- ・ SMT※¹対応可能な高耐熱性、高剛性、電気特性（低誘電率、低誘電正接等）
- ・ SMTコネクタは5Gスマートフォンのみならず、EVやサーバーでも採用拡大

※ SMT（Surface Mount Technology）：表面実装技術で、電子部品を基板に実装する方法で、あらかじめ基盤にはんだを転写し、電子部品搭載後に加熱し、はんだ付けを行う。

◇ 主用途

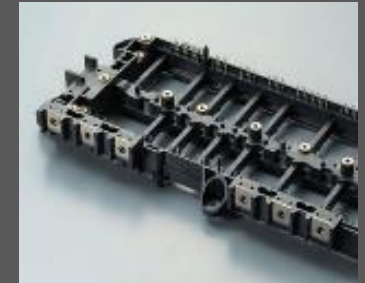
- ・ 電気/電子用途
- ・ 自動車用途



狭ピッチコネクタ



マイクロUSBコネクタ



HEVパワーモジュールケース

エンジニアリングプラスチック事業

【ポリプラスチック】

COC(環状オレフィン・コポリマー)

◇ 製品の特徴

- ・ 主原料：ノルボルネン、エチレン
- ・ 優れた透明性と高い安全性で、医療・食品包装分野に使用される
- ・ 低吸着性、高耐熱性、水蒸気バリアー性を持ち、FDA登録済み
- ・ 水に浮かせて分離できるペットボトル用ラベル素材で循環型社会に貢献

◇ 主用途

- ・ パッケージ用途
- ・ 医療用途



プレフィルドシリンジ



水質検査ボトル



フリーザーバッグ

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。
本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

- 本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。
- いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。